

日本産有剣膜翅類検索表

10. ギングチバチ科 (Crabronidae) ギングチバチ亜科 (Crabroninae)
ジガバチモドキ族 (Trypoxylonini) の種の検索寺山 守¹⁾・南部 敏明²⁾

(1) 〒339-0054 さいたま市岩槻区仲町2-12-29・(2) 369-1202 埼玉県大里郡寄居町桜沢2397-2)

TERAYAMA, Mamoru and NAMBU, Toshiaki : Taxonomic guide to the Japanese Aculeate wasps.

10. Family Crabronidae, Subfamily Larrinae, Tribe Trypoxylonini.

ジガバチモドキ族 *Trypoxylonini* には、日本ではクモカリバチ属 *Pison* とジガバチモドキ属 *Trypoxylon* が含まれる。これら2属は複眼の内側が明瞭にえぐれることから他属との区別は容易である。両属ともにクモ類を狩って子の餌とする。

日本産の種の検索表では、ジガバチモドキが常木 (1956, 1973a), Tsuneki (1956, 1981b) に、クモカリバチが Yasumatsu (1935) 及び常木 (1964) にある。また、ジガバチモドキの県別分布資料として南部 (1982a, 2008) によるものがある。本群は小形で形態差の小さい種が多く、同定は容易ではない。加えて、現在国内で使われている検索表は、いずれも専門家あるいは準専門家を対象としたものである。本シリーズの目的は、誰もが容易に同定でき、地域ファウナの解明に貢献できるものにある。そのために、特徴のある色彩を持つ種は少ないが、本報では写真や図を可能な範囲で多用した。さらに、各種の生態や分布情報も多く提供するよう努めた。

本検索表中の各種の分布は国内に限定したもので、下記の記号で生息地域を示した。

北：北海道，本：本州，四：四国，九：九州，対：対馬，種：種子島，屋：屋久島，琉：琉球列島（奄：トカラ・奄美諸島，沖：沖縄諸島，宮：宮古諸島，八：八重山諸島），小：小笠原群島。

クモカリバチ属 *Pison*

体色が黒色の中形から小形のハチ。前翅の亜前縁室（肘室）は2または3室からなる。腹部は幅があり、特に第1節、第2節は細長く伸びた棍棒状とはならない。

世界に約200種（2009年6月段階で196種）が知られており、日本からは2亜属に8種が記録されている。前翅の亜前縁室が2室よりなる *Krombeiniellum* 亜属にコウライクモカリバチ1種が位置付けられ、残りの7種は亜前縁室が3室よりなり、*Pison* 亜属となる。琉球列島からはツヤクモカリバチ1種のみが知られている一方で、小笠原諸島からは5種が報告されており、ツヤクモカリバチを除く、ハネダクモカリバチ、オガサワラクモカリバチ、チチジマクモカリバチ、ハハジマクモカリバチの4種は日本では小笠原諸島からのみ知られており、太平洋諸島に広域に分布するハネダクモカリバチから、小笠原諸島固有種のハハジマクモカリバチ、チチジマクモカリバチまでが見られる。従来、属名をそのまま用いてピソン、あるいはピソンバチと呼んでいたが、ニテラ（ヒメアナバチ）やプセン（ヨコバイバチ）等とともに改称された。

クモカリバチ属の種の検索

- 1a. 前翅の亜前縁室は2室よりなる (図2-2).
 b. 触角は短く, 第7節以降は長さよりも幅の方が大きく, かつ鞭節は先端に向かうにつれて幅が広くなる (図1-9, 1-10).
 コウライクモカリバチ *Pison koreense* (Radoszkowski, 1887) 本
- 1aa. 前翅の亜前縁室は3室よりなる (図2-1, 2-3~2-5).
 bb. 触角第7節以降の各節は幅よりも長さが長く, かつ鞭節の各節の幅は大体等しい.
 2
- 2a. 後単眼と複眼との距離は後単眼間の距離よりも大 (図2-6).
 b. 翅は全体的に暗褐色に曇る (図1-1, 1-2).
 c. 体長15mm以上の大形種.
 クロバネクモカリバチ *Pison strandi* Yasumatsu, 1935 本, 四, 対
- 2aa. 後単眼と複眼との距離は後単眼間の距離と等しいか小さい (図2-7~2-9).
 bb. 翅はほぼ透明か淡褐色にやや曇る程度.
 cc. 体長は12mm以下.
 3
- 3a. オスの頭盾の前縁中央は四角形状に強く突出し, 中央部は平ら (図2-23).
 チチジマクモカリバチ *Pison tosawai* Yasumatsu, 1935 小 (父島) [メスは未知]
- 3aa. オスの頭盾の前縁中央は三角形状か台形状に突出する.
 4
- 4a. 前翅の第2m-cu 脈 (第2逆走脈) は第3亜前縁室に接続する.
 b. オスの中胸側中脚基部前方部はこぶ状に突出する.
 c. 体長8-12mm. 翅は淡褐色.
 コブクモカリバチ *Pison insigne* Sickmann, 1984 九
- 4aa. 前翅の第2m-cu 脈 (第2逆走脈) は第2亜前縁室の後端か, それより基方に接続する (図2-1, 2-3~2-5).
 bb. オスの中胸側中脚基部前方部は特に突出しない.
 cc. 体長5-8mm. 翅はほぼ透明から淡褐色.
 5
- 5a. 腹節背板は表面が平滑で光沢をもち, かつ明瞭な点刻が散布される.
 b. 翅はほぼ透明.
 ツヤクモカリバチ *Pison punctifrons* Shuckard, 1838 本, 九, 屋, 琉, 小
- 5aa. 腹節背板は表面がさめはだ状でくすみ, 明瞭な点刻を欠く.
 bb. 翅はほぼ透明 (ハハジマクモカリバチ) から淡褐色 (他種).
 6
- 6a. メスの頭盾の前縁中央は三角形状に弱く突出し, 先端部は尖る (図2-18).
 b. オスの頭盾の前縁中央は三角形状に弱く突出し, 先端部は尖る.
 c. 第2亜前縁室は小さい (図2-5).
 オガサワラクモカリバチ *Pison oakleyi* Krombein, 1949 小 (父島)

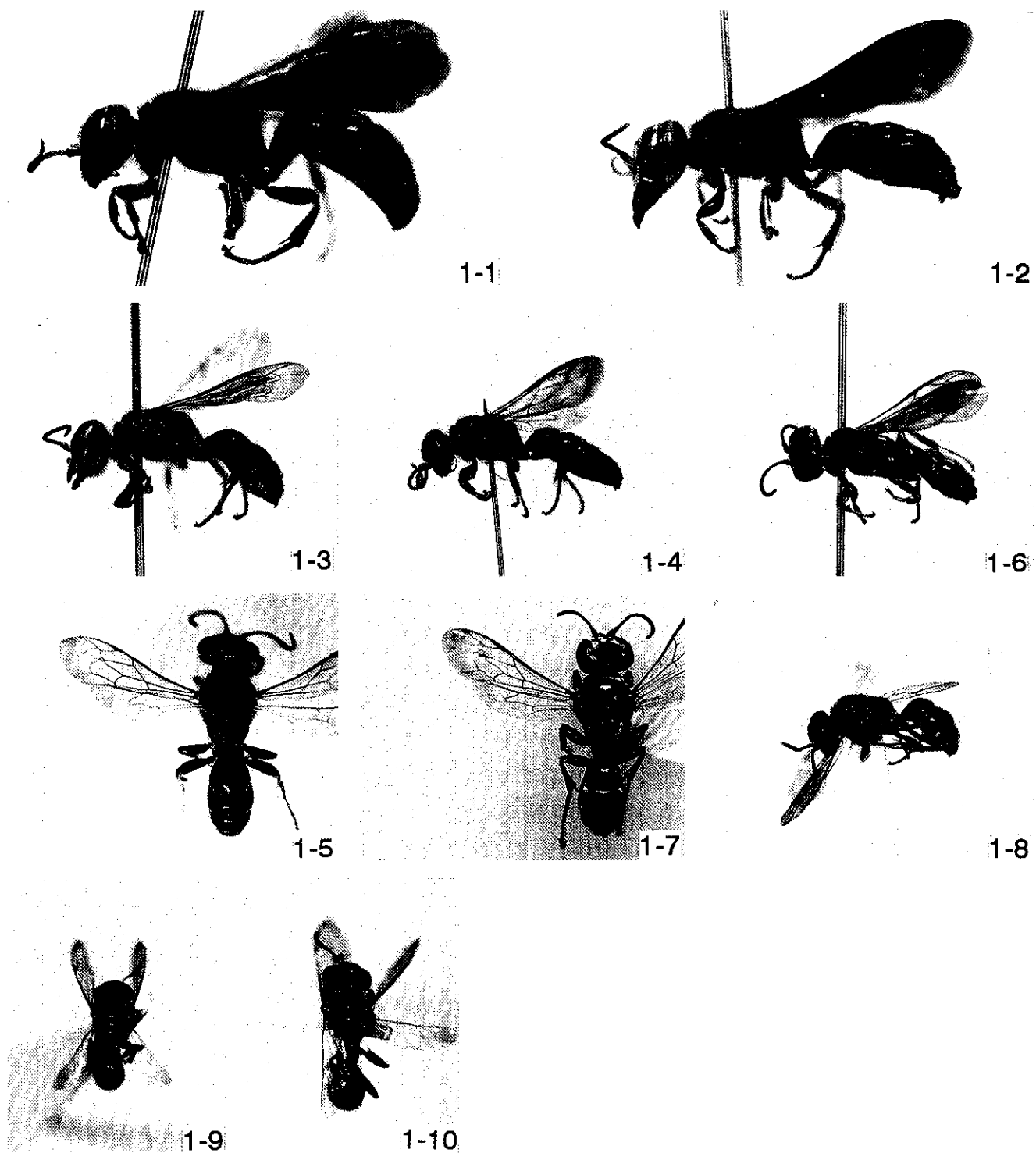


図1. クモカリバチ属 *Pison* (1).

1-1, 1-2, クロバネクモカリバチ *Pison strandi* Yasumatsu, 1935 (1-1, メス; 1-2, オス); 1-3~1-5, ツヤクモカリバチ *Pison punctifrons* Shuckard, 1838 (1-3, 1-5, メス; 1-4, オス); 1-6, ハハジマクモカリバチ *Pison hahadzimaense* Tsuneki, 1894, メス; 1-7, ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* Shuckard, 1838, メス; 1-8~1-10, コウライクモカリバチ *Pison koreense* (Radoszkowski, 1887) (1-8, 1-10, オス; 1-9, メス).

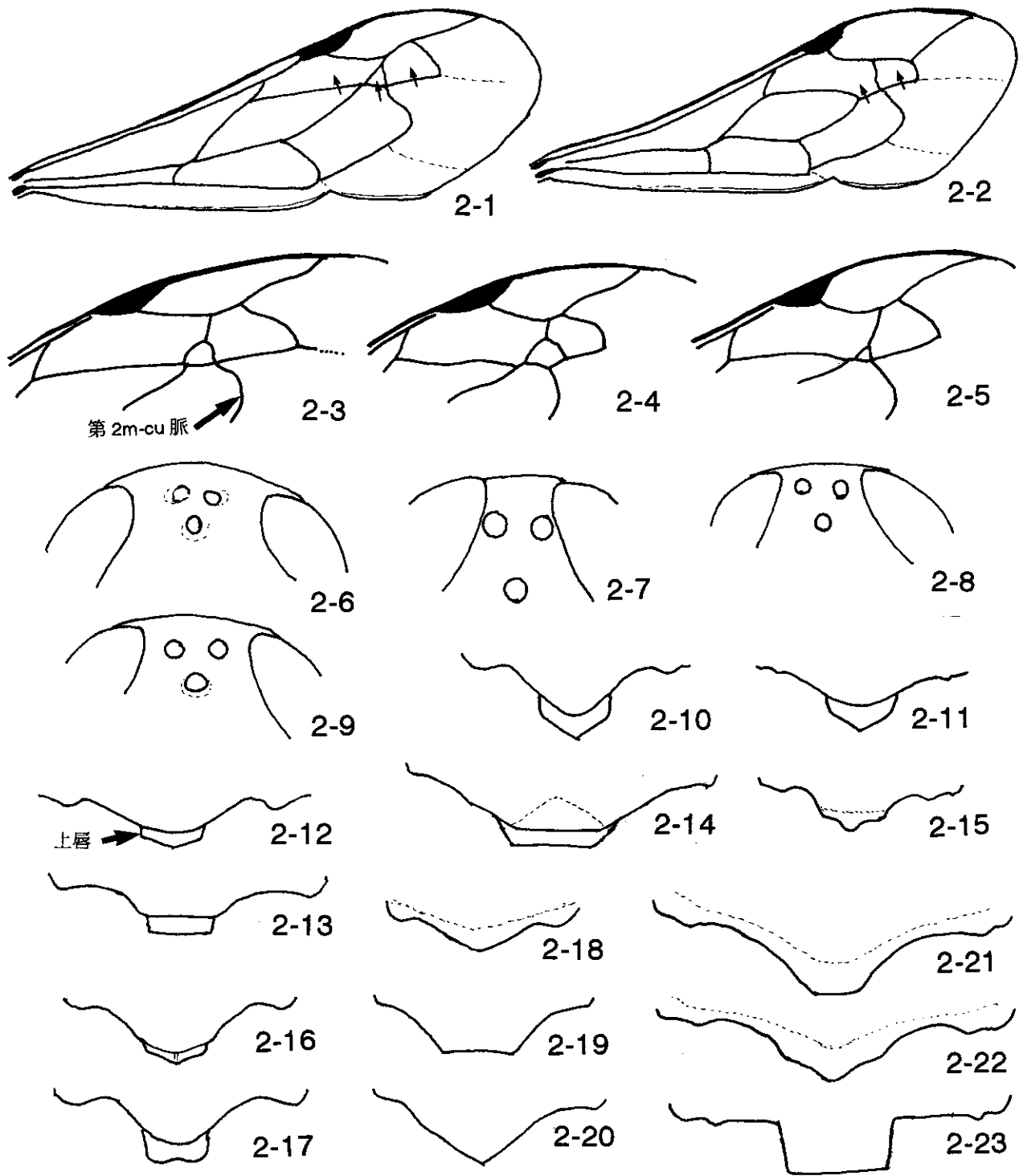


図2. クモカリバチ属 *Pison* (2).

2-1, 2-9, 2-16, 2-17, ツヤクモカリバチ *Pison punctifrons* Shuckard, 1838 (2-2, 前翅(矢印: 第1亜前縁室 ~ 第3亜前縁室); 2-9, メス; 2-16, 頭盾前縁, メス; 2-17, 頭盾前縁, オス); 2-2, 2-19, 2-20, コウライクモカリバチ *Pison koreense* (Radoszkowski, 1887) (2-2, 前翅(矢印: 第1亜前縁室, 第2亜前縁室); 2-19, 頭盾前縁, メス; 2-20, 頭盾前縁, オス); 2-3, 2-23, チチジマクモカリバチ *Pison tosawai* Yasumatsu, 1935 (2-3, 前翅, 亜前縁室及び第2m-cu脈; 2-15, 頭盾前縁, オス); 2-6, 2-12, 2-13, クロバネクモカリバチ *Pison strandi* Yasumatsu, 1935 (2-6, 頭頂部, メス; 2-12, 頭盾前縁, メス; 2-13, 頭盾前縁, オス); 2-7, 2-21, 2-22, ハハジマクモカリバチ *Pison hahadzimaense* Tsuneki, 1894 (2-7, 頭頂部, メス; 2-21, 頭盾前縁, メス; 2-22, 頭盾前縁, オス); 2-4, 2-8, 2-14, 2-15, ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* Shuckard, 1838 (2-4, 前翅, 亜前縁室及び第2m-cu脈; 2-8, 頭頂部, メス; 2-14, 頭盾前縁, メス; 2-15, 頭盾前縁, オス); 2-10, 2-11, コブクモカリバチ *Pison insigne* Sickmann, 1984 (2-10, 頭盾前縁, メス; 2-11, 頭盾前縁, オス); 2-5, 2-18, オガサワラクモカリバチ *Pison oakleyi* Krombein, 1949 (2-5, 前翅, 亜前縁室及び第2m-cu脈; 2-18, 頭盾前縁, メス). (一部 Yasumatsu (1935), Tsuneki (1984), 常木 (1964) を参考に作図.)

- 6aa. メスの頭盾の前縁中央は台形状に突出する (図2-14, 2-21).
- bb. オスの頭盾の前縁中央は台形状に突出し, さらに中央に小突起をもつ (図2-15, 2-22).
- cc. 第2 亜前縁室はより大きい (図2-4).
..... 7
- 7a. 触角第3節は第4節よりも短い.
- b. メスの後単眼は多少とも複眼から離れた場所に位置する (図2-8).
- c. 翅は淡褐色.
..... ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* Shuckard, 1838 小 (父島)
- 7aa. 触角第3節は第4節よりも長い.
- bb. メスの側単眼は複眼に近い場所に位置する (図2-7).
- cc. 翅はほぼ透明.
..... ハハジマクモカリバチ *Pison hahadzimaense* Tsuneki, 1984 小 (母島)

ジガバチモドキ属 *Trypoxylon*

中形から小形の細長いハチ。前翅の亜前縁室は1室のみ。腹部は細長く伸びる。腹部第1節の形状から、日本の本群を基方が柄状となり、後方は幅が広がるもの (Tsuneki (1981b) に倣いフラスコ状と呼ぶ) と、基方から後方に向かうにつれて幅が増す棍棒状のもの (一部の種で、若干フラスコ状的になるものがある) の2群に大別した。腹部第1節の長さや幅は、羽化時の状況で変化する事があるので注意を要する。メスでは触角が12節からなり、可視腹節は6節で、オスでは触角が13節からなり、可視腹節は7節であることで容易に識別できる。

現在、本属には *Trypoxylon* s. str. と *Trypargilum* の2亜属が認められており、世界に634種が記録されている (2009年6月段階)。日本でも多くの種を擁し、近年、奄美大島から報告されたフナガタジガバチモドキを加えて34種を数える。これらの内、キョウトジガバチモドキ、ハラアカジガバチモドキ及びフナガタジガバチモドキはメスのみが、ミシマジガバチモドキはオスのみが知られている。また、コダマジガバチモドキ、ミシマジガバチモドキ、キョウトジガバチモドキ、ソナンジガバチモドキは稀種と思われ、本土において一つの県からのみ報告されている。日本産の種は全て *Trypoxylon* 亜属に位置付けられる。

既存の孔を泥で仕切り、連鎖状に室をつくる。幼虫の餌としてクモを狩り、一室に何頭ものクモを蓄える。

ジガバチモドキ属の種の検索

- 1a. 腹部第1節は長く、長さは常に腹部第2+3節より長い。また、腹部の前方は細い柄となり、後方で急に膨らむ (図5-1~5-6).
- b. 背方から見て、腹部第1節の長さは最大幅の4倍以上で両縁はほぼ平行 (図3-1~3-4).
..... 2
- 1aa. 腹部第1節は短く、後方に向かうにつれて徐々に太くなり、棍棒状を呈する。長さは腹部第2節と第3節の和と同長かそれよりも短い (図8-1~8-6).
- bb. 背方から見て、腹部第1節の長さは通常は最大幅の4倍以下。両縁の後半部は後方に向って広がり平行部は短い (図3-5, 3-6).
..... 18

「腹部第1節フラスコ状」

- 2a. 額の大部分が隆起線によって盾形に縁どられる(図9-1, 9-2).
..... 3
- 2aa. 額に盾形の縁どりはない.
..... 4
- 3a. 額の盾状域の側角より上方部は下方部より著しく長く, 上方部の側辺は平行に近い(図9-1).
b. 前伸腹節側面に平滑部があり, 条刻は弱い.
..... トキンジガバチモドキ *Trypoxylon thaianum* Tsuneki, 1961 琉, 伊(八丈島)
- 3aa. 額の盾状域の側角より上方部は下方部よりわずかに長い程度で, 上方部は半楕円形(図9-2).
bb. 前伸腹節側面のほぼ全面が粗く条刻される.
..... マルトキンジガバチモドキ *Trypoxylon schmiedeknechti* Kohl, 1906 八
- 4a. 腹部は末節までのほとんどが赤黄色(図5-5, 5-6).
b. 前脚と中脚の大部分は赤黄色.
..... イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922 八
- 4aa. 腹部は黒色か, 黒と赤色あるいは赤黄色の2色性.
bb. 前脚と中脚の大部分が赤黄色とはならない.
..... 5
- 5a. 前伸腹節背板の前方中央にある心形域の囲溝は不明瞭(図12-1).
..... 6
- 5a. 前伸腹節背板の心形域の囲溝は明瞭(図12-6).
..... 8
- 6a. 腹部に赤色帯があり, 第2節, 第3節は赤色(図5-3, 5-4).
b. 後単眼と複眼との間の距離は, 後単眼間の距離の半分以下.
..... ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1857 本, 四, 九, 対, 琉
- 6aa. 腹部に赤色帯を持たず, 腹部第1-3節は黒褐色か黒色(図4-1, 4-2, 4-15, 4-16).
bb. 後単眼と複眼との間の距離は, 後単眼間の距離の半分以上.
..... 7
- 7a. 腹部第1-3節及び脚は黒褐色(図4-15, 4-16).
b. 頭盾は黒色.
c. メスの頭盾前縁は中央部で弱く台形状に突出し, 側縁に角はない(図10-17).
d. オスの前縁中央部は弱く凹む(図10-18).
..... タカサゴジガバチモドキ *Trypoxylon takasago* Tsuneki, 1966 琉
- 7aa. 腹部第1-3節及び脚は黒色(図4-1, 4-2).
bb. 頭盾前縁は黄色がかかる.
cc. メスの頭盾前縁は, 中央が台形状に弱く突出し, 側縁に鈍い角があることから, 計4つの角をもつ(図11-4).
dd. オスの頭盾前縁中央は弱く弧状に突出するか, 中央に長い水平部がある(図11-5).
..... チチジマジガバチモドキ *Trypoxylon chichidzimaense* Tsuneki 1973 小(父島, 母島)
- 8a. 前胸側板突起は歯状で先端が尖る(図12-2: やや不明瞭な場合がある).

- b. 脚は全転節が黄色あるいは黄褐色で、前脚脛節、付節は淡黄色。腿節及び、前脚を除いた脛節、付節は黒色。
 トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 本, 四, 九, 対, 沖
- 8aa. 前胸側板突起の先端は尖らず丸い。
 bb. 上述とは異なる。
 9
- 9a. 中胸背板は鮫肌状で、それに点刻が加わる。光沢をもたない。
 10
- 9aa. 中胸背板は微細彫刻を欠き、単に点刻されるのみで、光沢がある。
 11
- 10a. 脚は完全に黒色。
 b. メスの中胸背板中央に縦溝をもつ (図12-3).
 c. 頭盾前縁中央は大きく四角形状に突出する (図11-3).
 d. オスの触角13節 (先端節) は11節と12節の長さの和よりも短い。
 e. 体長9-13mm.
 コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konosuense* Tsuneki, 1968 本
- 10aa. 前脚, 中脚の基節は黒色, 腿節は黒褐色で, 他は黄色。
 bb. 中胸背板中央に縦溝はない。
 cc. 頭盾前縁中央は明瞭に広く円く突出し, 頭盾前縁中央の突出は小さい。メスでは突出部の中央に弱い切れこみがある (図10-12)。オスの前縁は平ら (図10-13).
 dd. オスの触角13節 (先端節) は長く, 11節と12節の長さの和よりも長い (図11-12).
 ee. 体長8.5-10mm. 体は細い。
 ホソジガバチモドキ *Trypoxylon imayoshii* Yasumatsu, 1938 北, 本, 九
- 10aaa. 前脚, 中脚は全て淡褐色。
 bbb. メスの中胸背板中央に縦溝をもつ (図12-4).
 ccc. 頭盾前縁中央はほとんど突出せず, わずかに葉状部分が見られる程度 (図11-2).
 ddd. オスの触角13節 (先端節) は11節と12節の長さの和よりも短い (図11-21).
 eee. 小形種で体長6.5mm以下。
 フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956 本
- 11a. 腹部の前方部に赤色部を持つ。後方の3節は黒色。
 12
- 11aa. 腹部は全体が黒色。
 14
- 12a. 触角鞭節下面は赤褐色から黄褐色。
 ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956 北, 本, 四, 九
 [メスは腹部に赤色帯があるが, オスは赤色帯がなく, 全体が黒色]
- 12aa. 触角は下面を含めて黒色。
 13
- 13a. 頭盾前縁中央はやや突出し, 中央部が平らな台形状となり, 前縁は反り返らない (図9-17).

- b. 大顎の基部は基本的に黒色で、黄白点はない。その他の部分は赤褐色。
 オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1933 北, 本, 四, 九, 対
 [メスは腹部に赤色帯があるが, オスは赤色帯がなく, 全体が黒色]
- 13aa. 頭盾前縁は円みをおびた三角形で, 中央は鈍い角となる。前縁は反り返らない (図11-8).
- bb. 大顎は暗褐色で先端近くに顕著な黄白点をもつ。
 キョウトジガバチモドキ *Trypoxylon kyotoense* Tsuneki, 1966 本
 [これまでのところメスのみ知られている]
- 13aaa. 頭盾前縁は弧状に円く突出し, 前縁付近は全体的に強く反り返る (図10-14).
- ccc. 大顎は黄赤色で, 基部は黒色。黄白点はない。
 キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1933 本, 四
 [メスは腹部に赤色帯があるが, オスは全体が黒色の場合がある]
- 14a. 前伸腹節背面と後面の大部分が条刻される。
- b. 前脚腿節, 脛節, 付節に赤褐色部がある。
 リュウキュウジガバチモドキ *Trypoxylon ryukyuense* Tsuneki, 1966 琉
- 14aa. 前伸腹節背面の大部分と後面上半分は条刻されない。
- bb. 前脚は付節がやや褐色を帯びる以外, 全体が暗褐色から黒色。
 15
- 15a. 前胸背板前方傾斜面の下方は平坦, あるいはごく浅いくぼみをもつにすぎない。
- b. 触角後方隆起は幅広く, 前方に大きく突出する。
- c. メスの頭盾前縁中央は四角形状に突出する (図11-9).
 クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* Matsumura, 1926 奄, 沖, 八
- 15aa. 前胸背板前方傾斜面の下方に明瞭な横長の溝をもつ。
- bb. 触角後方隆起は幅が狭い。
- cc. メスの頭盾前縁中央は四角形状には突出せず, また腹部に赤色帯がある。
 16
- 16a. オスの触角第13節 (先端節) は長く, その手前の4節 (9-12節) と同長かより長い (図11-22).
- b. オスの腹部第1節柄部背面に細い縦溝はない。
 ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956 北, 本, 四, 九
 [オスの腹部は全面で黒色だが, メスでは腹部に赤色帯がある]
- 16aa. オスの触角第13節 (先端節) は, その手前の4節 (9-12節) の長さの和よりも短い (図11-16).
- bb. オスの腹部第1節柄部背面に基部から中央部を越す細い縦溝がある (図12-7).
 17
- 17a. 頭盾前縁は弱い弧状で, 前縁付近は全体的に反り返る (図10-15).
 キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1933 本, 四
 [オスの腹部は黒色の場合がある]
- 17aa. 頭盾前縁中央はやや突出し, 中央部が平らな台形状となる。前縁は反り返らない (図9-18).
 オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1933 北, 本, 四, 九, 対
 [オスの腹部は全面で黒色だが, メスでは腹部に赤色帯がある]

「腹部第1節棍棒状」

- 18a. 腹部の後方3節は赤褐色.
 ハラアカジガバチモドキ *Trypoxylon katsuuense* Tsuneki, 1992 奄, 沖
- 18aa. 腹部の後方3節は黒色.
 19
- 19a. 額に深い縦溝がある.
 b. 腹部第2, 第3節背板の先端近くに縦長のくぼみがある.
 イリオモテジガバチモドキ *Trypoxylon iriomotense* Tsuneki, 1981 八
- 19aa. 額の溝はごく浅いか, 痕跡的.
 bb. 腹部第2, 第3節背板の先端近くにくぼみはない.
 20
- 20a. 触角後方隆起 (SAT) は高く突出し, V字状の明瞭な稜となる.
 フナガタジガバチモドキ *Trypoxylon lucidipes* Tsuneki, 1980 奄
- 20aa. 触角後方隆起は単純な山形か, 低い楕円形となる.
 21
- 21a. 前脚脛節はオスでは全体が黒色. メスでもほぼ全体が黒色.
 22
- 21aa. 前脚脛節は少なくとも前面に広い黄褐色部がある.
 25
- 22a. 腹部第1節は長く, 側方から見て長さはその最大幅の3.7-4.5倍 (図12-13).
 b. 眼間比3:2 (頭部を正面から見て, 頭頂部の上部複眼間の最短距離と頭盾付近の下部複眼間の最短距離の比).
 サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960 北, 本
- 22aa. 腹部第1節の長さはその最大幅の3.5倍以下.
 bb. 眼間比1:1.
 23
- 23a. 触角後方隆起は低くこぶ状.
 b. 腹部第1節は短く, 側方から見て長さはその最大幅の1.5-2倍 (図12-14).
 エゾジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758) 北, 本
- 23aa. 触角後方隆起は高く鼻状.
 bb. 腹部第1節の長さはその最大幅の2倍以上.
 24
- 24a. 腹部第1節の長さは, その最大幅の2.5倍以下.
 b. オスの触角第13節は短く, 11節と12節の和とほぼ等しいかより短い (図11-24).
 ヤマトジガバチモドキ *Trypoxylon frigidum* Smith, 1856 北, 本, 四, 九
- 24aa. 腹部第1節はやや長く, 長さはその最大幅の約3倍.
 bb. オスの触角第13節は長く, 10節から12節までの長さとはほぼ等しい (図11-18).
 ヒメジガバチモドキ *Trypoxylon fronticorne* Gussakovskij, 1936 北, 本, 四, 九
- 25a. 眼間比4:3. 頭部は正面から見て後側縁は角ばらない (図9-14).

- b. 頭盾前縁中央は2齒状に突出する (図9-14).
- c. オスの触角第6節は顕著に長く, 第7節, 第8節の下面先端部には明瞭な突起がある (図11-17).
 シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958 北, 本
- 25aa. 眼間比3-4:1. 頭部は正面から前より後側縁は鈍く角ばり, 近四角形となる (図9-13).
- bb. 頭盾前縁中央は3齒状となる (図9-13).
- cc. オスの触角第2節は太く, 球状で, 第6節から急に太く短くなる (図11-15).
 ナンブジガバチモドキ *Trypoxylon nambui* Tsuneki, 1966 本, 四
- 25aaa. 眼間比はほぼ2:1. 頭部は正面から見て後側縁は角ばらない, あるいは鈍く角ばる (マダラジガバチモドキ, コイケジガバチモドキ).
- bbb. 頭盾前縁中央は明瞭な2齒状あるいは3齒状とはならない.
- ccc. オスの触角は上述の形態に該当しない.
 26
- 26a. 脚の各転節は淡黄色, あるいは黄色味が強い(マダラジガバチモドキの前脚転節は黒褐色で中脚, 後脚転節は黄色).
 27
- 26aa. 脚の各転節の全部または大部は黒色.
 30
- 27a. 触角第3節は長く, メスで先端の幅の3.7-4倍, オスで2.2-2.5倍の長さ.
- b. 頭部は正面から前より後側縁は鈍く角ばるり, 近四角形となる.
 マダラジガバチモドキ *Trypoxylon rufimaculatum* Antropov, 1987 北, 本, 四, 九, 対, 奄
- 27aa. 触角第3節は短く, メスで3倍以下, オスで2倍以下の長さ.
- bb. 頭部は正面から見て後側縁は角ばらない.
 28
- 28a. 腹部に赤色帯はない.
 オキナワジガバチモドキ *Trypoxylon okinawanum* Tsuneki, 1966 琉
- 28aa. 腹部に赤色帯がある.
 29
- 29a. 中胸背板は, 雌雄ともに鮫肌状で, 小点刻を密生する. 光沢はない.
- b. 頭盾前縁中央は反り返らず, メスの前縁中央は明瞭に突出し, 三角形の切り込みがある (図10-23).
 コダマジガバチモドキ *Trypoxylon kodamanum* Tsuneki, 1972 本
- 29aa. 中胸背板は, 雌雄ともに鮫肌状で, 小点刻を密生する. 光沢はない.
- bb. 頭盾前縁中央は弱く突出し, かつ縁部が上方に反り返り (図10-21), メスでは中央に三角形の強い切れ込みはない.
 ソナンジガバチモドキ *Trypoxylon sonani* Tsuneki, 1986 九
- 29aaa. 中胸背板は微細彫刻を欠き, 点刻されるのみで, 光沢がある.
- bbb. 頭盾前縁中央は反り返らない.
 ミシマジガバチモドキ *Trypoxylon mishimaense* Tsuneki, 1986 本

[オスのみが知られている]

- 30a. 頭部正面から見て後側縁が角ばり，近四角形となる(図9-9).
- b. 頭盾中央部は屋根型に膨らむ.
- c. オスの触角第6節の下面の基部はえぐれ，先端部はやや歯状に突出する(図11-16).
- d. 触角後方隆起は短く，前単眼までの距離の約1/3程度.
 コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koikense* Tsuneki, 1956 北，本，四，九
- 30aa. 頭部は正面から見て後側縁は角ばらない.
- bb. 頭盾中央部は丸く膨らみ，屋根型とはならない.
- cc. オスの触角第6節の下面の基部は変型しない.
- dd. 触角後方隆起は長く，前単眼までの距離の1/3以上のところまで伸びる.
 31
- 31a. 中脚脛節は淡黄色.
- b. 触角第3節は短く，長さは幅の2.5倍以下. オスの触角13節(先端節)は短く，12節と11節の長さの和より短い(図11-24).
- c. 小形の種で体長4.5-7.5mm程度.
 ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum* Tsuneki, 1956 北，本，四，九，対，屋
- 31aa. 中脚脛節は黒色.
- bb. 触角第3節は長く，長さは幅の3倍以上. オスの触角13節(先端節)は長く，12節と11節の長さの和より明らかに長い(図11-13, 11-14).
- cc. 体長10-13mm程度の中形種.
 32
- 32a. 腹部第1節の長さはその最大幅の2.5倍以下.
- b. 触角後方隆起は前単眼までの距離の半ばに達する.
- c. メスでは腹部に赤帯がある場合が多い(図8-2; 図8-1, 黒色型).
- d. メスの額の点刻はよりまばらで，点刻間の距離は点刻の直径よりも離れているものが多い.
- e. メスの前伸腹節側面は光沢が強く，上半部に荒い条刻がある.
- f. オスの触角第5節は第6節よりも長い(図11-13).
 コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1933 北，本，四，九，対
- 32aa. 腹部第1節の長さはその最大幅の3-3.3倍.
- bb. 触角後方隆起は前単眼までの距離の半ばに達しない.
- cc. 腹部は常に黒色.
- dd. メスの額の点刻はより密で，点刻間の距離は点刻の直径よりも小さいものが多い.
- ee. メスの前伸腹節側面は光沢が鈍く，細かい条刻が全面をおおう.
- ff. オスの触角第5節は第6節とほぼ等しい長さ(図11-14).
 ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1932 北，本，四，九

表. 日本産ジガバチモドキ属の種の形質一覧.

A, 腹部第1節の形状: 1, フラスコ状; 2, 棍棒状. B, 腹部の赤褐色~黄褐色帯の有無: 1, 無し; 2, 有り; 3, 腹部のほぼ全体が赤黄色. C, 前脚転節の色彩: 1, 黒; 2, 黄色~黄褐色. D, 前脚脛節の黄色~黄褐色部の有無: 1, 無し; 2, 有り. 本表は種同定の際に, およその見当をつけるためのもので, 個体変異が必ず存在することには注意.

	A	B	C	D
フクイジガバチモドキ <i>Trypoxylon ambigum</i> Tsuneki, 1956	1	2	2	2
チチジマジガバチモドキ <i>Trypoxylon chichidzimaense</i> Tsuneki 1973	1	1	1	1
トゲジガバチモドキ <i>Trypoxylon errans</i> Saussure, 1867	1	2	2	2
ホソジガバチモドキ <i>Trypoxylon imayoshii</i> Yasumatsu, 1938	1	1	2	2
クロイワジガバチモドキ <i>Trypoxylon inornatum</i> Matsumura, 1926	1	1	1	1
コウノスジガバチモドキ <i>Trypoxylon konosuense</i> Tsuneki, 1968	1	1	1	1
キョウトジガバチモドキ <i>Trypoxylon kyotoense</i> Tsuneki, 1966	1	2	1	1
オオジガバチモドキ <i>Trypoxylon malaisei</i> Gussakovskij, 1933	1	♀2/♂1	1	1
ニッポンジガバチモドキ <i>Trypoxylon nipponicum</i> Tsuneki, 1956	1	♀2/♂1	1	1
ナミジガバチモドキ <i>Trypoxylon petiolatum</i> Smith, 1857	1	2	1	1,2
イシガキジガバチモドキ <i>Trypoxylon petioloides</i> Strand, 1922	1	3	2	2
キスケジガバチモドキ <i>Trypoxylon regium</i> Gussakovskij, 1933	1	♀2/♂1,2	1	1
リュウキュウジガバチモドキ <i>Trypoxylon ryukyuense</i> Tsuneki, 1966	1	1	1	1,2
マルトキンジガバチモドキ <i>Trypoxylon schmiedeknechti</i> Kohl, 1906	1	1	1	1
タカサゴジガバチモドキ <i>Trypoxylon takasago</i> Tsuneki, 1966	1	1	1	1
トキンジガバチモドキ <i>Trypoxylon thaianum</i> Tsuneki, 1961	1	1	1	1
ケシジガバチモドキ <i>Trypoxylon exiguum</i> Tsuneki, 1956	2	1	1	2
エゾジガバチモドキ <i>Trypoxylon figulus</i> (Linnaeus, 1758)	2	1	1	1
ヤマトジガバチモドキ <i>Trypoxylon frigidum</i> Smith, 1856	2	1	1	1
ヒメジガバチモドキ <i>Trypoxylon fronticorne</i> Gussakovskij, 1936	2	1	1	1
イリオモテジガバチモドキ <i>Trypoxylon iriomotense</i> Tsuneki, 1981	2	1	2	2
ハラアカジガバチモドキ <i>Trypoxylon katsuuense</i> Tsuneki, 1992	2	3	2	2
コダマジガバチモドキ <i>Trypoxylon kodamanum</i> Tsuneki, 1972	2	2	2	2
コイケジガバチモドキ <i>Trypoxylon koikense</i> Tsuneki, 1956	2	1	1	2
ミシマジガバチモドキ <i>Trypoxylon mishimaense</i> Tsuneki, 1986	2	1	2	2
ナンブジガバチモドキ <i>Trypoxylon nambui</i> Tsuneki, 1966	2	♀2/♂1	2	2
フナガタジガバチモドキ <i>Trypoxylon lucidipes</i> Tsuneki, 1980	2	2	2	2
オキナワジガバチモドキ <i>Trypoxylon okinawanum</i> Tsuneki, 1966	2	1	2	2
コシブトジガバチモドキ <i>Trypoxylon pacificum</i> Gussakovskij, 1933	2	♀1,2/♂1	1	2
マダラジガバチモドキ <i>Trypoxylon rufimaculatum</i> Antropov, 1987	2	1(2)	1	2
サッポロジガバチモドキ <i>Trypoxylon sapporoense</i> Tsuneki, 1960	2	1	1	1
シモヤマジガバチモドキ <i>Trypoxylon shimoyamai</i> Tsuneki, 1958	2	1	1	2
ソナンジガバチモドキ <i>Trypoxylon sonani</i> Tsuneki, 1986	2	2	2	2
ミヤマジガバチモドキ <i>Trypoxylon varipes</i> Pérez, 1932	2	1	1	2

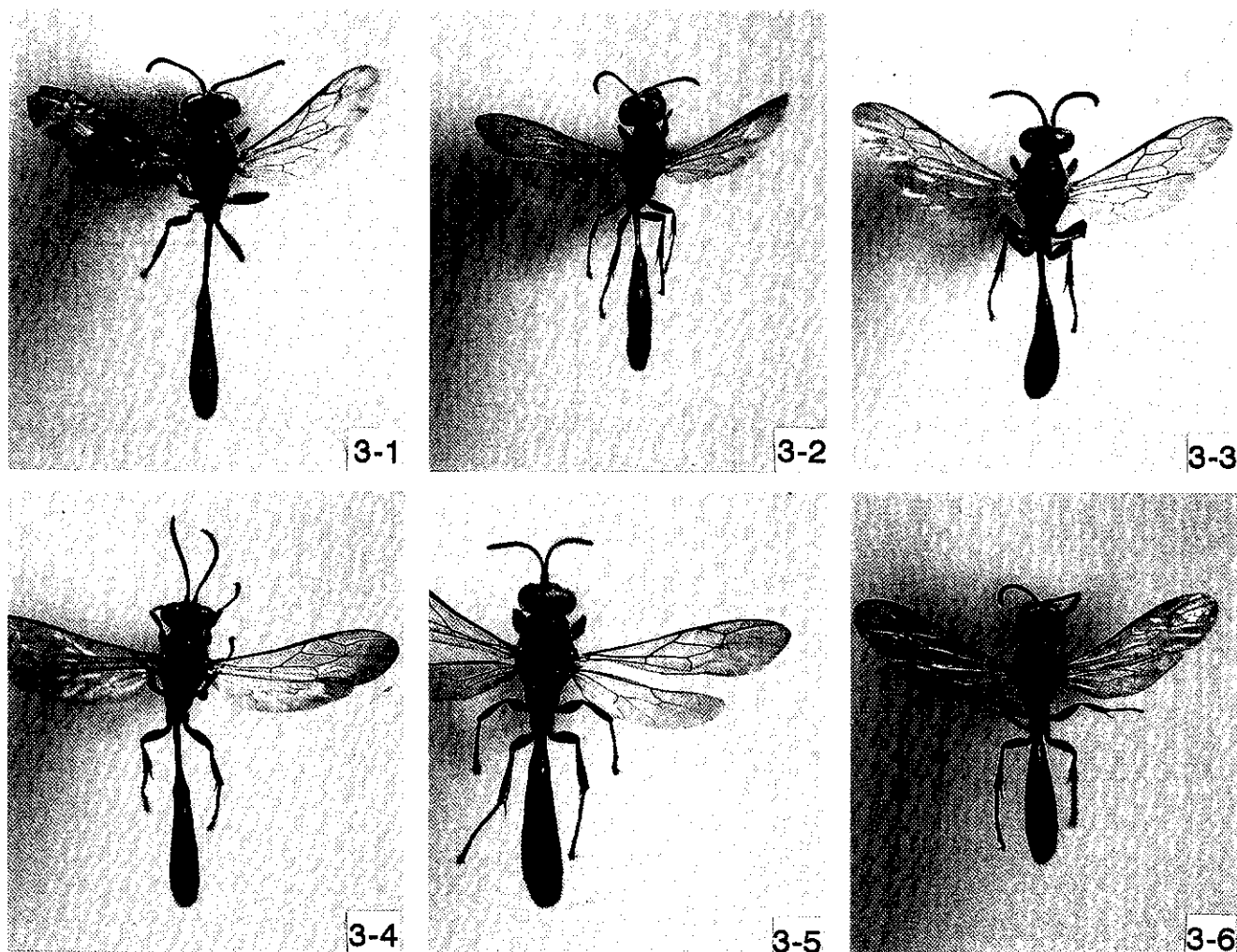


図3. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (1).

3-1, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858, メス ; 3-2, 3-3, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 (3-2, メス ; 3-3, オス) ; 3-4, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932, メス ; 3-5, 3-6, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932 (3-5, メス ; 3-6, オス).

種の概説

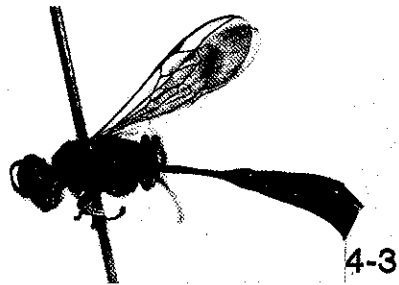
クモカリバチ属 *Pison*

コウライクモカリバチ *Pison koreense* (Radoszkowski, 1887) [図1-8~1-10, 2-2, 2-19, 2-20]

体長7-8mm. 黒色. 大顎は赤褐色, 翅は透明. 触角は短く, 第7節以降は長さよりも幅の方が大きく, かつ鞭節は先端に向かうにつれて明瞭に幅が広がる. メスの頭盾の先端は円く, オスでは三角形状で, 三角形の基部両側の縁は平行となる. 複眼には立毛が密に生える. 腹節間のくびれがより顕著. 前翅の亜前縁室が2個で *Krombeiniellum* 亜属に位置付けられる (日本産の他の種は3個で *Pison* 亜属).



4-1



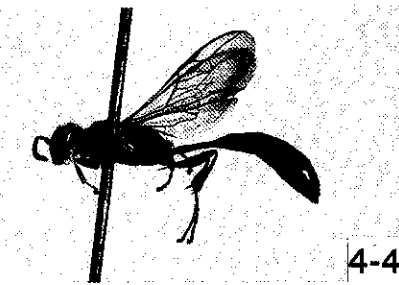
4-3



4-5



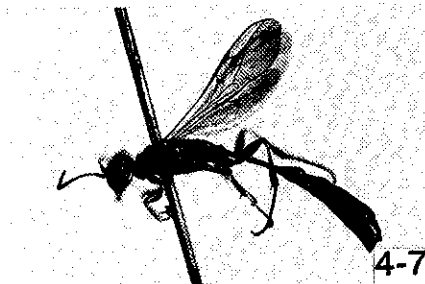
4-2



4-4



4-6



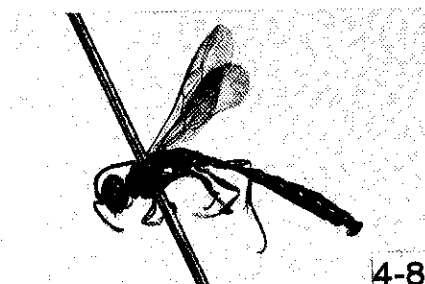
4-7



4-9



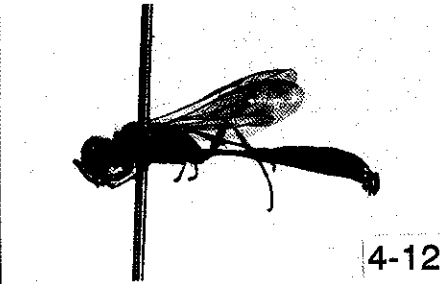
4-11



4-8



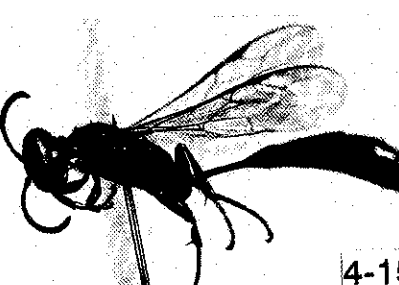
4-10



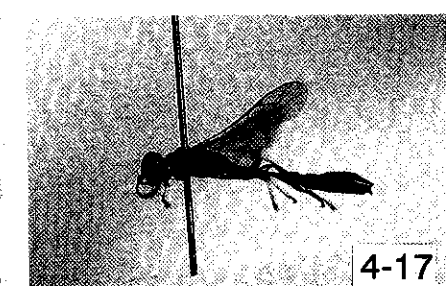
4-12



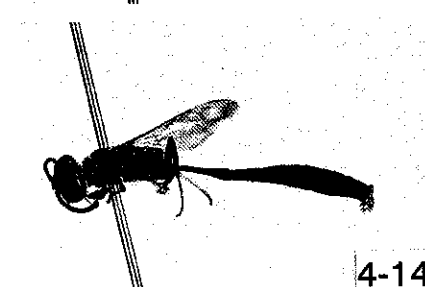
4-13



4-15



4-17



4-14



4-16



4-18

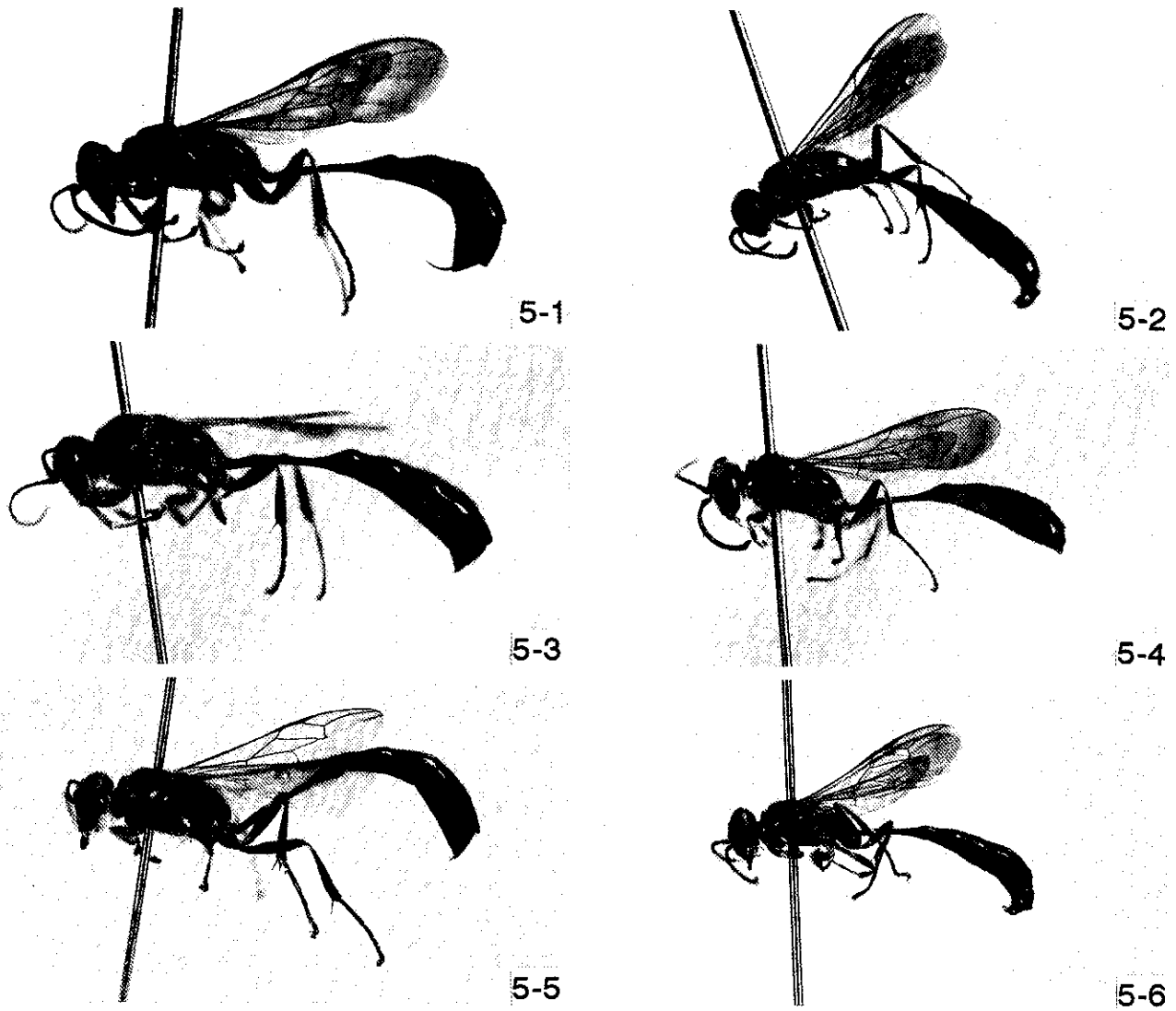


図5. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (3).

5-1, 5-2, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932 (5-1, メス ; 5-2, オス) ; 5-3, 5-4, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858 (5-3, メス ; 5-4, オス) ; 5-5, 5-6, イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922 (5-5, メス ; 5-6, オス).

図4. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (2).

4-1, 4-2, チチジマジガバチモドキ *Trypoxylon chichidzimaense* Tsuneki, 1973 (4-1, メス ; 4-2, オス) ; 4-3, 4-4, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 (4-3, メス ; 4-4, オス) ; 4-5, 4-6, クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* Matsumura, 1926 (4-5, メス ; 4-6, オス) ; 4-7, 4-8, ホソジガバチモドキ *Trypoxylon imayoshii* Yasumatsu, 1938 (4-7, メス ; 4-8, オス) ; 4-9, 4-10, コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konosuense* Tsuneki, 1968, メス ; 4-11, 4-12, ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956 (4-11, メス ; 4-12, オス) ; 4-13, 4-14, マルトキンジガバチモドキ *Trypoxylon schmiedeknechti* Kohl, 1906 (4-13, メス ; 4-14, オス) ; 4-15, 4-16, タカサゴジガバチモドキ *Trypoxylon takasago* Tsuneki, 1966 (4-15, メス ; 4-16, オス) ; 4-17, フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956, メス ; 4-18, トキンジガバチモドキ *Trypoxylon thaianum* Tsuneki, 1961, メス.

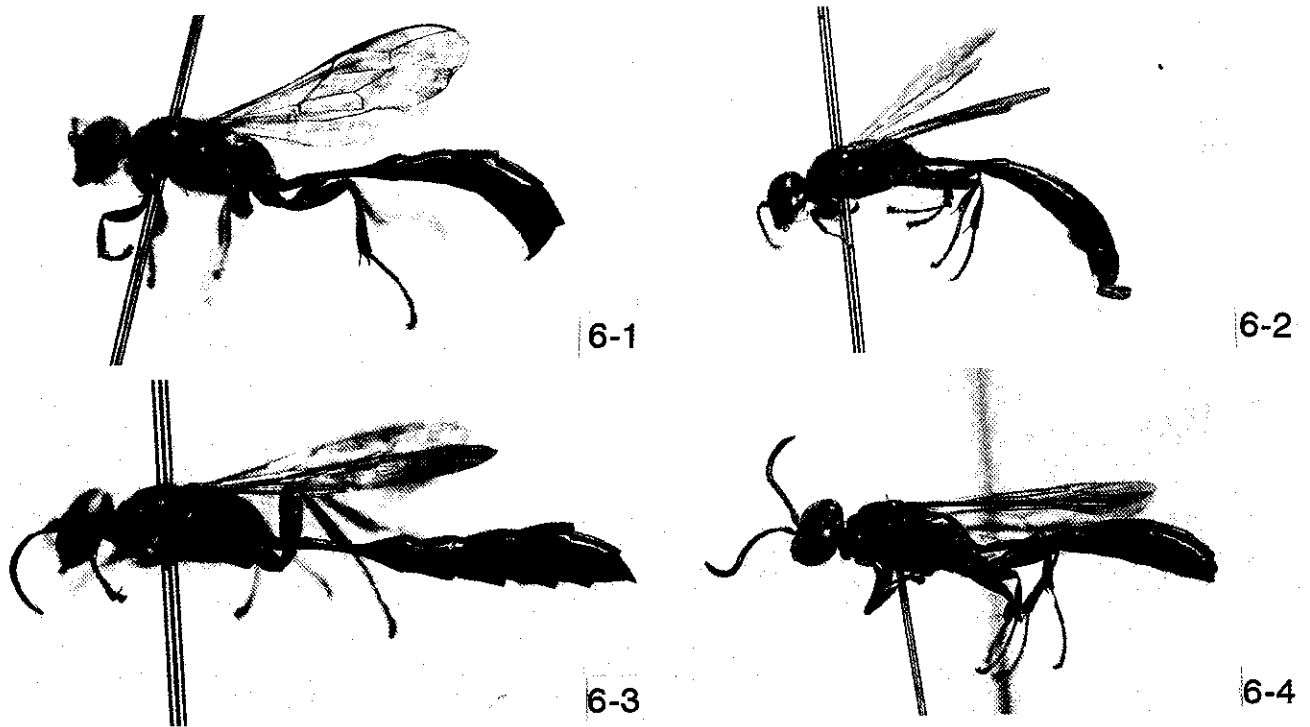
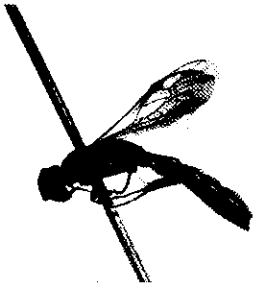


図6. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (4).

6-1, 6-2, キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1932 (6-1, メス ; 6-2, オス) ; 6-3, 6-4, リュウキュウジガバチモドキ *Trypoxylon ryukyense* Tsuneki, 1966 (6-3, メス ; 6-4, オス).

図7. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (5).

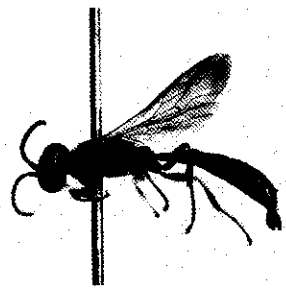
7-1, 7-2, ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum* Tsuneki, 1956 (7-1, メス ; 7-2, オス) ; 7-3, 7-4, エゾジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758) (7-3, メス ; 7-4, オス) ; 7-5, 7-6, ヤマトジガバチモドキ *Trypoxylon frigidum* Smith, 1856 (7-5, メス ; 7-6, オス) ; 7-7, 7-8, ヒメジガバチモドキ *Trypoxylon fronticorne* Gussakovskij, 1936 (7-7, メス ; 7-8, オス) ; 7-9, 7-10, コダマジガバチモドキ *Trypoxylon kodamanum* Tsuneki, 1972 (7-9, メス ; 7-10, オス) ; 7-11, 7-12, コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koikense* Tsuneki, 1956 (7-11, メス ; 7-12, オス) ; 7-13, 7-14, ナンプジガバチモドキ *Trypoxylon nambui* Tsuneki, 1966 (7-13, メス ; 7-14, オス) ; 7-15, 7-16, マダラジガバチモドキ *Trypoxylon rufimaculatum* Antropov, 1987 (7-15, メス ; 7-16, オス) ; 7-17, 7-18, サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960 (7-17, メス ; 7-18, オス).



7-1



7-3



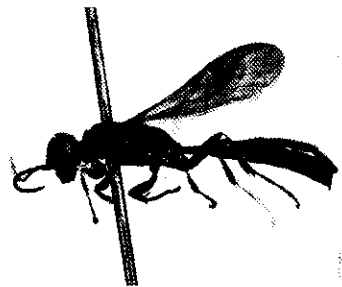
7-5



7-2



7-4



7-6



7-7



7-9



7-11



7-8



7-10



7-12



7-13



7-15



7-17



7-14



7-16



7-18

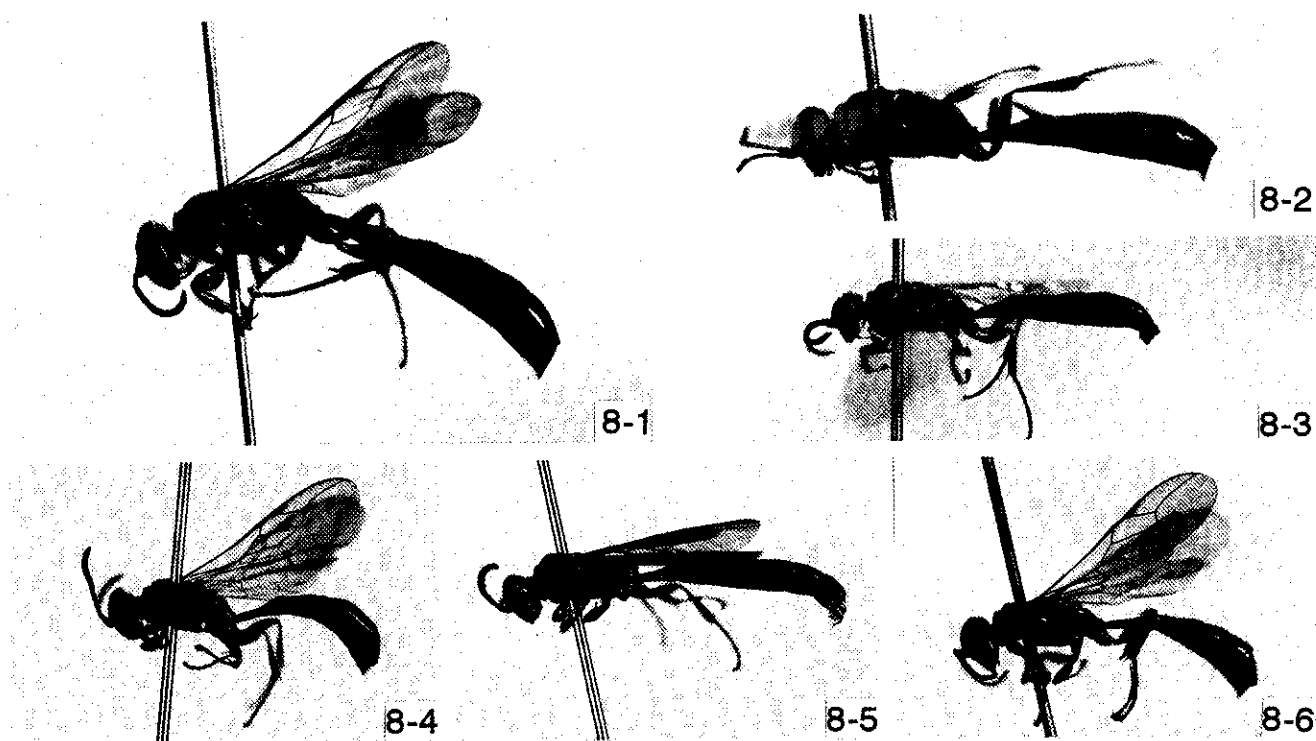


図8. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (6).

8-1~8-3, コシプトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932 (8-1, メス (黒色型), 8-2, メス (腹部第2節と第3節に赤帯のある赤色紋型), 8-3, オス); 8-4, 8-5, シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958 (8-4, メス; 8-5, オス); 8-6, ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905, メス.

北米の記録は、第二次世界大戦後に物資の移動に伴って侵入、定着したものと思われ、メリーランド、ミシガン、ワシントン、カンザスから記録されている。さらにカナダのオンタリオからも侵入が報告された。

小さい泥壺を複数まとめて作り、関東地方ではハグモ科のネコハグモを狩り、1つの壺に37-69頭(7月)、12-18頭(8月)のクモを入れる(南部, 2003, 2004)。7月に狩るクモ1個体の体重は小さく、そのために多くの個体を狩ると判断される。北米でもネコハグモと同属の *Dictyna* 属の種を狩る。また、カニグモ科のクモを狩る記録もある。

分布：本州；朝鮮半島，台湾，中国，ロシア（沿海州），北米（人為的移入），カナダ（人為的移入）。

ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* Shuckard, 1838 [図1-7, 2-4, 2-8, 2-14, 2-15]

体長5-8mm。黒色。大顎は基部を除いて赤褐色，脚は黒色であるが，前脚腿節外面に銀白色の毛が密に生え，そのために前脚腿節は銀白色に見える。同様の毛は前胸襟部，前伸腹節，腹部背面にも見られる。翅は淡褐色に曇る。

觸角第3節は第4節よりも短い。メスの頭盾前縁は明瞭に凹み，オスの前縁は四角形状で，中央に葉状の小突起を持つ。頭頂は密に点刻される。腹節背板はさめはだ状で光沢は弱く，明瞭な点刻を欠く。オスの第3腹板に小突起はなく，横走する隆起縁が見られる。

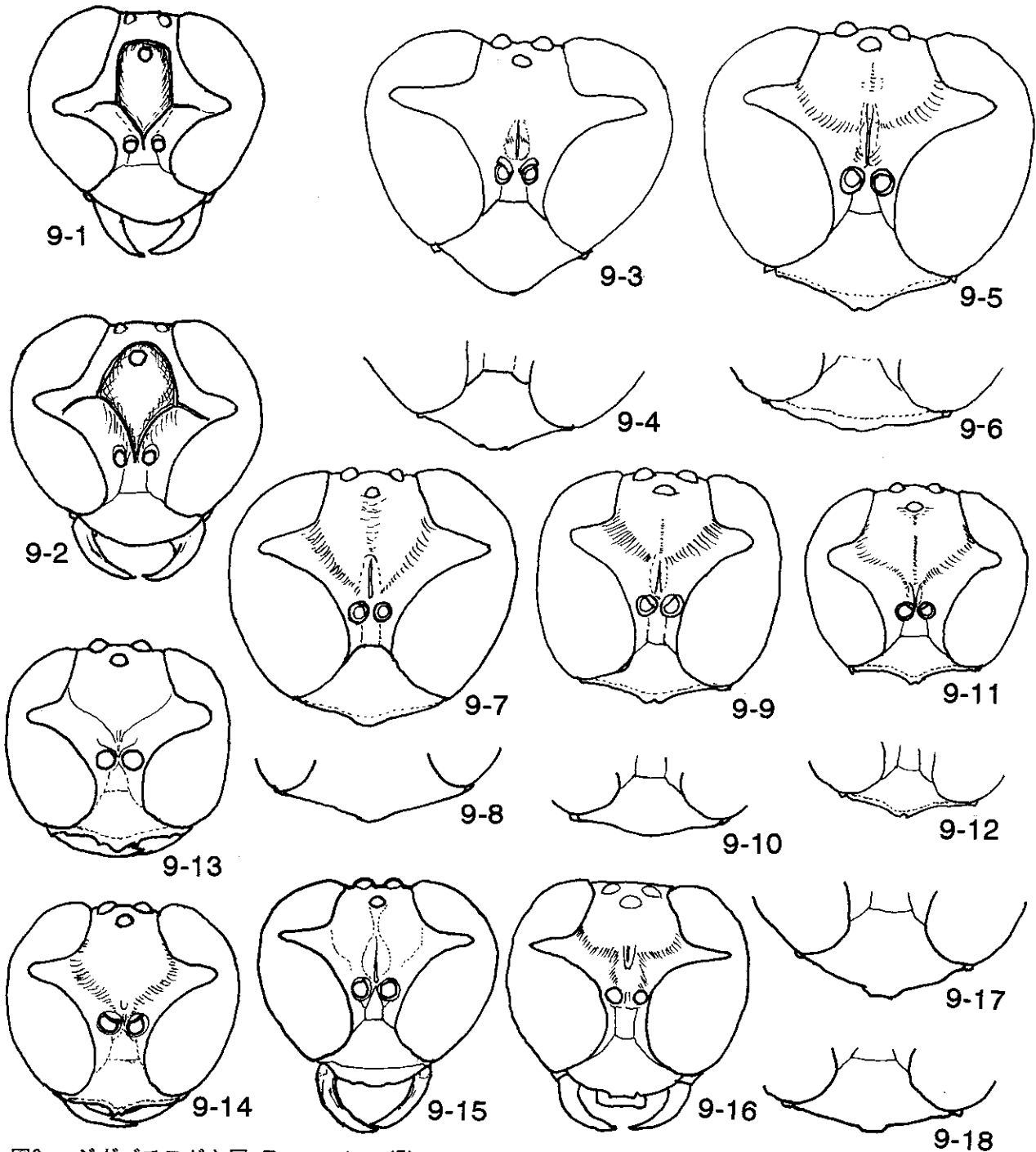


図9. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (7).

9-1, トキンジガバチモドキ *Trypoxylon ithianum* Tsuneki, 1961 ; 9-2, マルトキンジガバチモドキ *Trypoxylon schmiedeknechti* Kohl, 1906 ; 9-3, 9-4, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858, (9-3, メス ; 9-4, オス) ; 9-5, 9-6, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932, (9-5, メス ; 9-6, オス) ; 9-7, 9-8, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867, (9-7, メス ; 9-8, オス) ; 9-9, 9-10, コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koikense* Tsuneki, 1956 (9-9, メス ; 9-10, オス) ; 9-11, 9-12, ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum* Tsuneki, 1956 (9-11, メス ; 9-12, オス) ; 9-13, ナンプジガバチモドキ *Trypoxylon nambui* Tsuneki, 1966, オス ; 9-14, シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958, メス ; 9-15, イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922, メス ; 9-16, ハラアカジガバチモドキ *Trypoxylon katsuuense* Tsuneki, 1992, メス ; 9-17 9-18, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932 (9-17, メス ; 9-18, オス). (一部 Tsuneki (1956, 1973, 1981b) を参考に作図).

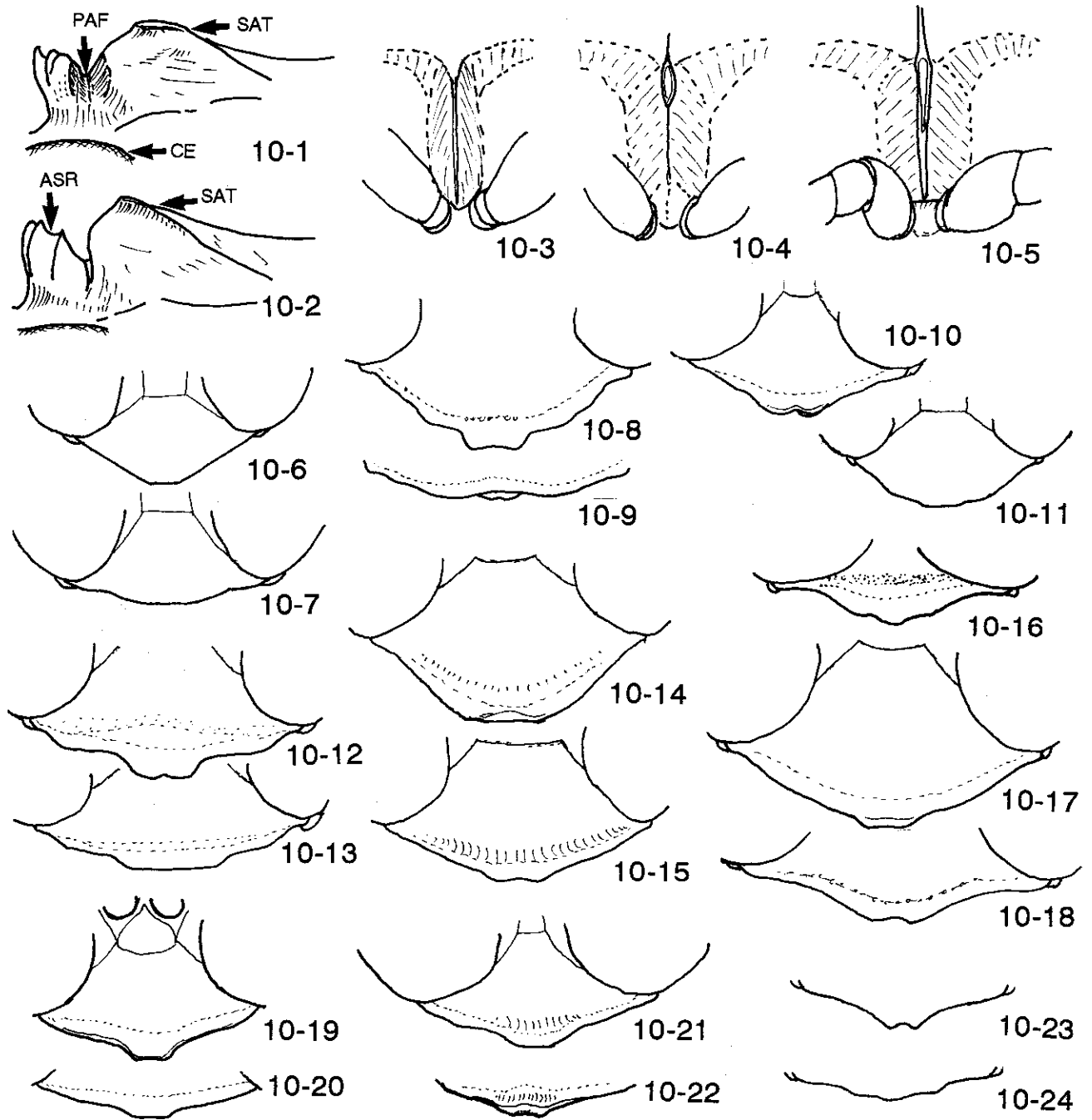


図10. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (8).

10-1, 10-2, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858 (10-1, メス, 側面; 10-2, 同, オス, ASR: 触角挿入孔縁, PAF: 触角後方溝, SAT: 触角後方隆起 (=触角間隆起, =触角間鼻稜), CE: 複眼,) ; 10-3, 10-10, ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905, (10-3, 触角後方隆起, 前面, メス; 10-10, 頭盾, メス); 10-4, 10-5, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932, (10-4, 触角後方隆起, 前面, メス; 10-5, 同, オス; 10-11, 頭盾, メス); 10-6, 10-7, マダラジガバチモドキ *Trypoxylon rufimaculatum* Antropov, 1987, 頭盾, (10-6, メス; 10-7, オス); 10-8, 10-9, エソジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758), 頭盾, (10-8, メス; 10-9, オス); 10-11, ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956, 頭盾, メス; 10-12, 10-13, ホソジガバチモドキ *Trypoxylon imayoshii* Yasumatsu, 1938, 頭盾, (10-12, メス; 10-13, オス); 10-14, 10-15, キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1932, 頭盾, (10-14, メス; 10-15, オス); 10-16, イリオモテジガバチモドキ *Trypoxylon iriomotense* Tsuneki, 1981, 頭盾, メス; 10-17, 10-18, タカサゴジガバチモドキ *Trypoxylon takasago* Tsuneki, 1966, 頭盾, (10-17, メス; 10-18, オス); 10-19, 10-20, サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960, 頭盾, (10-19, メス; 10-20, オス); 10-21, 10-22, ソナンジガバチモドキ *Trypoxylon sonani* Tsuneki, 1986, 頭盾, (10-21, メス; 10-22, オス); 10-23, 10-24, コダマジガバチモドキ *Trypoxylon kodamanum* Tsuneki, 1972, 頭盾, (10-23, メス; 10-24, オス). (一部 Tsuneki (1956, 1966a, b, 1980, 1981b)を参考に作図).

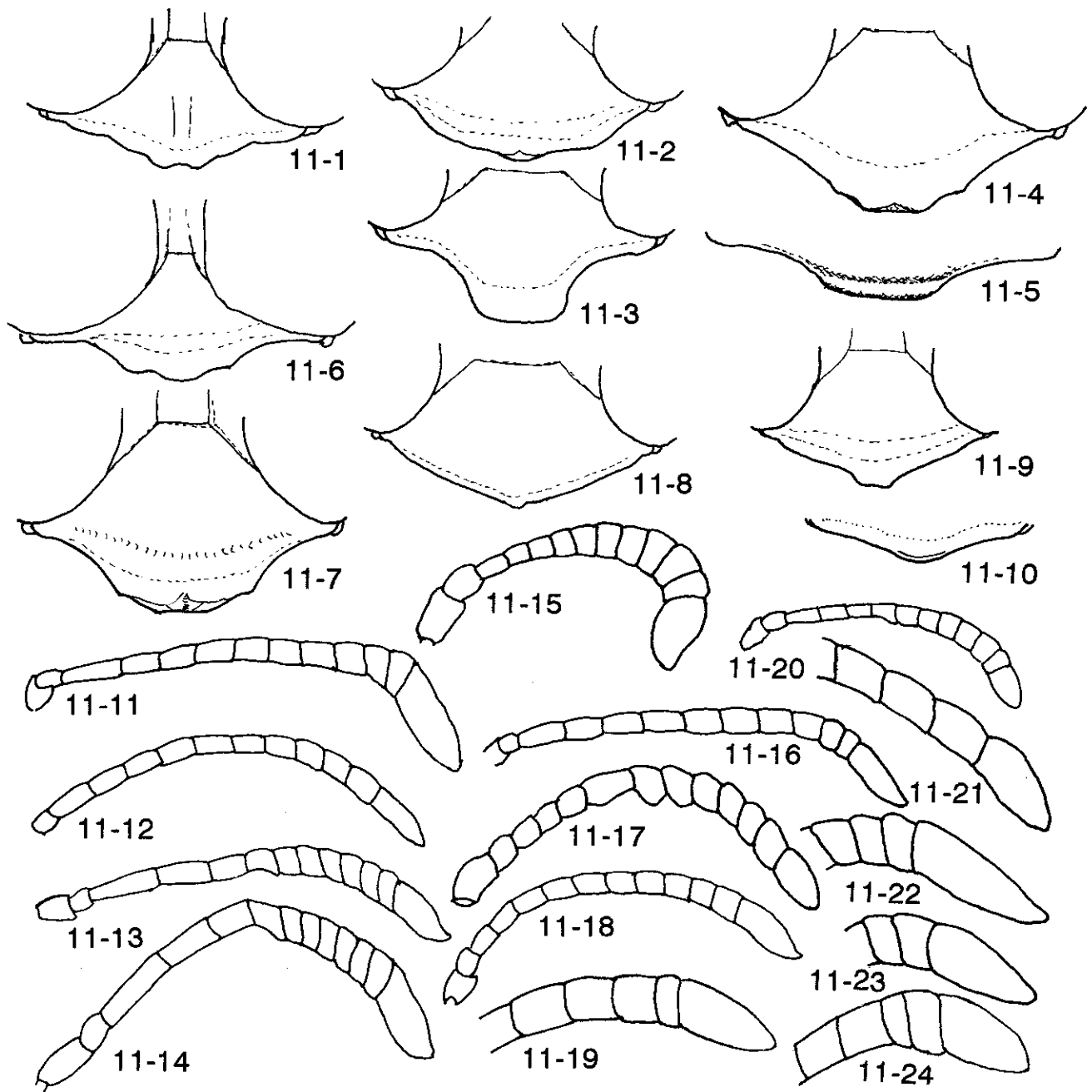


図11. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (9).

11-1, オキナワジガバチモドキ *Trypoxylon okinawanum* Tsuneki, 1966, メス; 11-2, フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956, メス; 11-3, コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konosuense* Tsuneki, 1968, メス; 11-4, 11-5, チチジマジガバチモドキ *Trypoxylon chichidzimaense* Tsuneki, 1973, 頭盾, (11-4, メス; 11-5, オス); 11-6, イリオモテジガバチモドキ *Trypoxylon iriomotense* Tsuneki, 1981, 頭盾, メス; 11-7, リュウキュウジガバチモドキ *Trypoxylon ryukyuense* Tsuneki, 1966, 頭盾, メス; 11-8, キョウトジガバチモドキ *Trypoxylon kyotoense* Tsuneki, 1966, 頭盾, メス; 11-9, 11-10, クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* Matsumura, 1926, 頭盾, (11-9, メス; 11-10, オス).

11-11~11-24, 触角, オス: 11-11, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867; 11-12, ホソジガバチモドキ *Trypoxylon imayoshii* Yasumatsu, 1938; 11-13, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932; 11-14, ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905; 11-15, ナンブジガバチモドキ *Trypoxylon nambui* Tsuneki, 1966; 11-16, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932; 11-17, シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958; 11-18, ヒメジガバチモドキ *Trypoxylon fronticorne* Gussakovskij, 1936; 11-19, キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1932; 11-20, コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koikense* Tsuneki, 1956; 11-21, フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956; 11-22, ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956; 11-23, サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960; 11-24, ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum* Tsuneki, 1956. (一部 Tsuneki (1956, 1973, 1981b, 1984)を参考に作図).

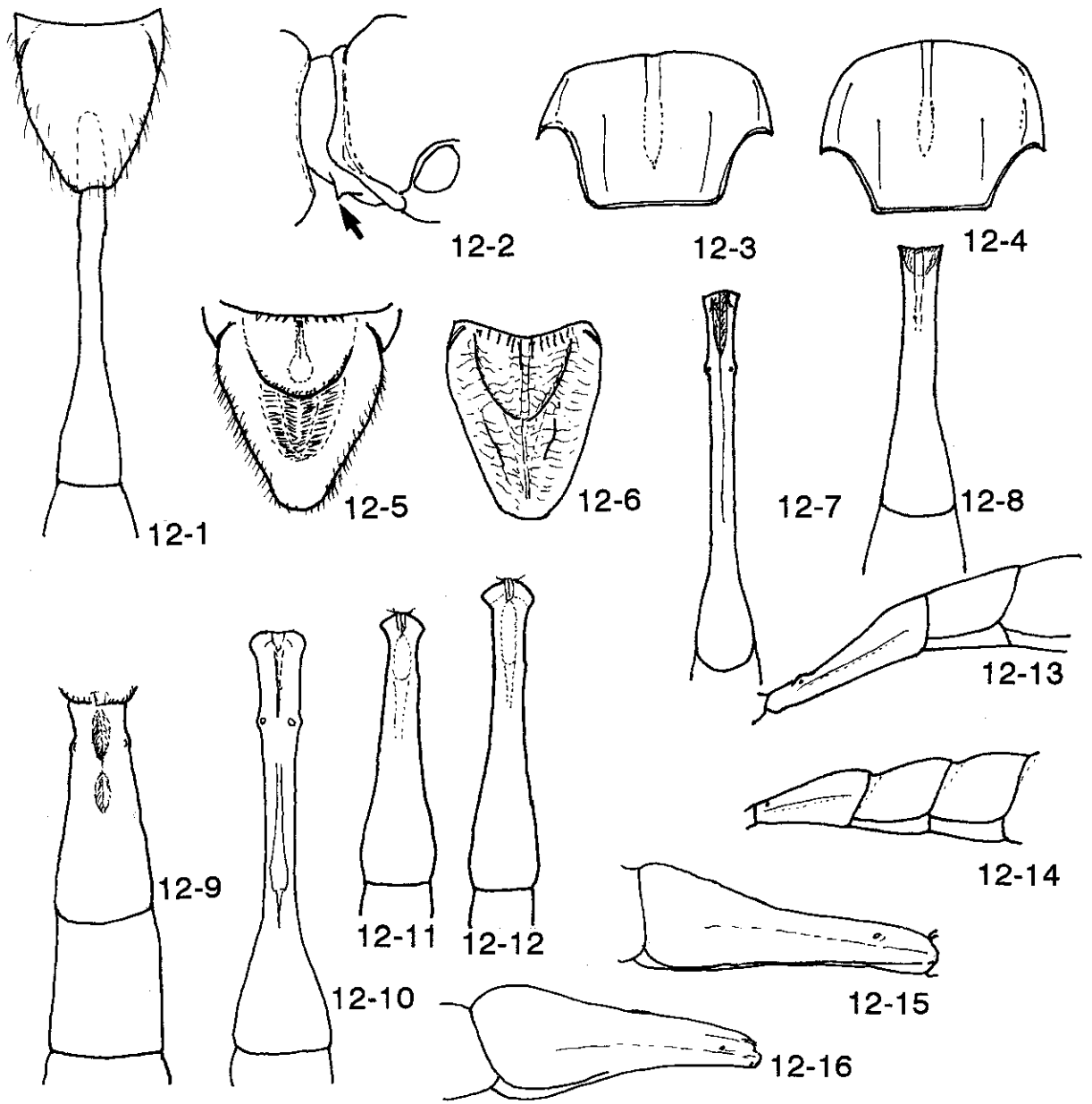


図12. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (8).

12-1, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858, 前伸腹節及び腹部第1節, 背面, メス; 12-2, 12-10, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 (12-2, 矢印: 前胸側板突起, メス; 12-10, 腹部第1節, メス); 12-3, 12-8, コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konosuense* Tsuneki, 1968 (12-3, メス, 中胸背板; 12-8, メス, 腹部第1節, 背面); 12-4, フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956, メス, 中胸背板; 12-5, イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922, 前伸腹節, 背面, メス; 12-6, 12-7, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932 (12-6, 前伸腹節, 背面, オス; 12-7, オス, 腹部第1節, 背面); 12-9, ハラアカジガバチモドキ *Trypoxylon katsuense* Tsuneki, 1992, 腹部第1節, メス; 12-11, 12-12, 12-13, サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960 (12-11, 腹部第1節, 背面, メス; 12-12, 同, オス; 12-13, 腹部第1-3節, 側面, メス); 12-14, エゾジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758), 腹部第1-3節, 側面, メス; 12-15, ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905, 腹部第1節, 側面, メス; 12-16, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932, 腹部第1節, 側面, メス.

(一部 Tsuneki (1956, 1973)を参考に作図).

太平洋諸島からアジア，マダガスカル，アフリカにかけて広く生息する。*Pison hanedai*として記載されたが，後に広域に分布する*P. argentatum*の亜種として位置付けられた (Tsuneki, 1984)。現在，日本の父島産の個体群のみに亜種*P. a. hanedai* Tsuneki, 1973の名が与えられているが，亜種として位置づけられるか否か再検討を要する。

オガサワラクモカリバチ *Pison oakleyi* に似るが，頭盾前縁の形態や第2亜前縁室がより大きい事で区別される。

分布：小笠原諸島（父島）；ハワイ，セイシェル諸島，フィリピン，インドネシア，シンガポール，タイ，マダガスカル，スーダン。

ハハジマクモカリバチ *Pison hahadzimaense* Tsuneki, 1984 [図1-6, 2-7, 2-21, 2-22]

体長5-7mm。黒色で大顎の先端2/3は赤褐色，脚は黒色。翅は透明で，外縁部はいくらか曇る。後単眼は複眼のすぐ近くに位置する。触角第3節は第4節よりも長い。メスの頭盾前縁は台形状。オスの頭盾前縁は台形状で，中央に葉状の小突起を持つ。腹節背板はさめはだ状で光沢は弱く，明瞭な点刻を欠く。オスの第3腹板に1対のこぶ状の小突起がある。

小笠原諸島母島の固有種。

分布：小笠原諸島（母島）。

コブクモカリバチ *Pison insigne* Sickmann, 1894 [図2-10, 2-11]

体長8-12mmのやや大形の種。黒色。オス，メスともに頭盾前縁中央に三角形の突起があり，両側基部は平行となる。翅は淡褐色に曇る。オスの中胸前方部はこぶ状に突出する。

前翅の第2m-cu脈（第2逆走脈）は第3亜前縁室に接続する事で，日本産の他種と区別できる。

日本では今のところ熊本県からのみ記録されている（田塾，1977）。

分布：九州（熊本）；朝鮮半島，中国，ロシア（沿海州）。

オガサワラクモカリバチ *Pison oakleyi* Krombein, 1949 [図2-5, 2-18]

体長6mm。黒色。大顎は基半部が黒色，先端部は赤褐色。翅はやや曇り，翅端の縁部はより黒色がかかる。頭盾の前縁中央は，オス，メスともに三角形に突出し，先端部は尖る。

グアム島から記載された基亜種の外，マリアナ諸島ロタ島から*P. o. rotaense* Tsuneki, 1968が，小笠原諸島父島から亜種*P. o. boninense* Tsuneki, 1973が記載されている。小笠原諸島の個体は他地域のものに比べて小形で，翅の曇りがやや弱く，中胸側板の点刻がよりまばらとなる。

ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* に似るが，頭盾の前縁中央が三角形である事と，第2亜前縁室が小さい事で区別される。

分布：小笠原（父島）；グアム島，マリアナ諸島（ロタ島）。

ツヤクモカリバチ *Pison punctifrons* Shuckard, 1838 [図1-3～1-5, 2-1, 2-9, 2-16, 2-17]

体長7-8mm。黒色，翅は透明で翅端の縁部は若干曇る。大顎は黒色で先端の1/3は多少褐色がかかる。オス，メスともに頭盾前縁の中央部は三角形に強く突出する。触角第3節は第4節よりも長い。腹節背板は明瞭な点刻が散布され，点刻間の表面は平滑で光沢を持つ。

竹筒や木の虫孔等を泥で仕切り室を作る。コガネグモ科，ヒメグモ科，アシナガグモ科，ハエト

リグモ科等を狩り、1室に9-20頭を入れる。

分布：本州，九州，屋久島，琉球列島，小笠原諸島（父島）；朝鮮半島，台湾，中国，東南アジア，太平洋諸島。

クロバネクモカリバチ *Pison strandi* Yasumatsu, 1935 [図1-1, 1-2, 2-6, 2-12, 2-13]

体長15-20mmの大形種で他種との区別は容易である。黒色で翅は暗褐色。

竹筒や木の虫孔等を泥で仕切り室を作る。最大9室まで作った記録がある。主にカニグモ科のクモを狩り、ハエトリグモ科，コガネグモ科の種も狩る。1室に9-24頭を貯える。本種はオスが、巢の入り口で門番を行い、メスが不在の時でも外敵が侵入しないように振る舞う興味深い習性を持つ（舛田，1939）。平地から山地にかけて普通に見られ、特に山地に多い。オオクモカリバチの和名もある。

分布：本州，四国，対馬；朝鮮半島。

チチジマクモカリバチ *Pison tosawai* Yasumatsu, 1935 [図2-3, 2-23]

体長10mm程度。黒色で翅はやや曇る。後単眼と複眼との距離は後単眼間の距離よりも小さい。腹部第1，第2背板は非常に小さく弱い点刻を持ち，第3背板以降は点刻を持たない。

オスの頭盾の前端中央は四角形状に大きく前方に突出し，突出部の前縁中央部は平らである事で，他種とは容易に区別される。メスは未知。

小笠原諸島特産種。

分布：小笠原諸島（父島）。

ジガバチモドキ属 *Trypoxylon*

フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambigum* Tsuneki, 1956 [図4-17, 11-2, 11-21, 12-4]

体長5-7mm。体の細長い小形の種。腹部第1節はフラスコ状で，柄部は細長い。第1，2節（時に3節も）に赤黄色帯を持つ。前脚，中脚はほぼ全体が淡黄色。後脚の転節と脛節基半は淡黄色で，他は淡褐色。頭盾前縁中央は突出しない。中胸背に微細彫刻を持ち，光沢を欠く。また，中央に縦溝がある。

オスはホソジガバチモドキ *T. imayoshii* に似るが，触角末端節が短く，前節（第12節）よりも少し長い程度であることで区別される。

分布：本州，千島（国後島）。

チチジマジガバチモドキ *Trypoxylon chichidzimaense* Tsuneki 1973 [図4-1, 4-2, 11-4, 11-5]

体長10-11mm。黒色で，腹部の各節の後縁は多少褐色がかかる場合がある。触角は黒褐色で下面は暗褐色となる。大顎は赤褐色。頭盾前縁は淡黄色。脚は黒色で，多少褐色がかかる。メスの頭盾前縁は，中央が台形状に弱く突出し，側縁に鈍い角があることから，計4つの角をもつ。オスでは，前縁中央は弱く弧状に突出するか，中央に長い水平部がある。

小笠原諸島の特産種。

分布：小笠原（父島，母島）。

ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum* Tsuneki, 1956 [図7-1, 7-2, 9-11, 9-12, 11-24]

体長4.5-7mmの小形種。腹部第1節は棍棒状で黒色。前脚と中脚の基節から腿節までは黒色、脛節、付節は黄褐色。中脚脛節外縁と付節の先端部は褐色がかかる場合がある。後脚は黒色。頭盾前縁は円くやや突出する。眼間比2:1で、複眼の下方の最短距離が上方の最短距離よりも明らかに狭い。触角後方隆起は高く鼻状。

前伸腹節背面から後面の条刻は変異が大きく、横走するものから斜走するものが多い個体まで見られる (Tsuneki, 1956)。

日本産のものは原名亜種 *T. e. exiguum* Tsuneki, 1956となる。ロシア (沿海州) には亜種 *T. e. gussakovskiji* Tsuneki, 1974が記載されている。小形のサイズでコイケジガバチモドキ *T. koikense* に似るが、頭盾は丸く膨隆し、屋根型とはならない事で容易に区別される。松浦 (2006) にパラタイプ標本の写真がある。

萱ぶきの屋根に多く、また木の虫孔にも好んで営巣する。1室に20-42頭を、平均で30頭も貯える。餌はヒメグモ科とコガネグモ科の種で幼体が多い。

分布：北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島；朝鮮半島、ロシア (沿海州)。

トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 [図3-2, 3-3, 4-3, 4-4, 9-7, 9-8, 11-11, 12-2, 12-10]

体長9-11mm。腹部第1節は柄状、メスでは腹部第1節後縁から第3節、あるいは第4節の基方までに大きな赤色帯をもつが、オスでは、第1節と第2節の後縁部が赤色となる程度。前脚転節、脛節、付節は淡黄色。メスの中脚は黒褐色であるが、転節は淡黄色、脛節は中央が淡黒色で、両端が淡黄色となる。後脚転節は淡黄色で脛節の基端は淡褐色。オスの中脚と後脚の脛節は淡褐色。触角第13節は長い。前胸側板に歯状の突起があるが、突出が小さく、分かりにくい個体もある。

竹筒等に2-5室を作り、主にハエトリグモ科のクモを狩り、コモリグモ科、フクログモ科等も餌として記録されている。1室に6-16頭を貯える。体サイズに比べ細い孔を好んで用いる。

分布：本州、四国、九州、対馬、沖縄；台湾、中国、東南アジア、太平洋諸島、インド、スリランカ、モーリシャス、セイシェル、マダガスカル。

エゾジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758) [図7-3, 7-4, 10-8, 10-9, 12-14]

体長8-9mm。腹部第1節は棍棒状で短い、腹部は黒色。脚は黒色。頭盾前縁中央は突出する。触角間隆起は低く、こぶ状でその上に縦綾が見られる。眼間比は1:1。

ユーラシア大陸に広く分布し、日本産のものは亜種 *T. f. yezo* Tsuneki, 1956として記載されたが、後に *T. figulus* の同物異名とされた。

色彩と体サイズからヤマトジガバチモドキ *T. figidum* とヒメジガバチモドキ *T. fronticorne* に似るが、前2種とは触角後方隆起が低くこぶ状 (前2種は高く鼻状) である事から容易に区別される。

竹筒等に営巣し、ハエトリグモ科のアオオビハエトリ、ウデブトハエトリ等を狩る。また、ムモントクリバチの古巣を利用した記録もある。

分布：北海道、本州；ヨーロッパ、極東ロシア。

ヤマトジガバチモドキ *Trypoxylon frigidum* Smith, 1856 [図7-5, 7-6]

体長はメスで8-10mm, オスで5-8mm. 腹部第1節は棍棒状で, 長さは最大幅の2-2.3倍, 腹部は黒色. 脚は黒色. 頭盾前縁の中央部はにぶい角をなす. 触角後方隆起は高く鼻状となる. 眼間比は1:1.

日本のものには亜種 *T. cornutum yamatonis* Tsuneki, 1981の名が与えられて来たが, Antropov (1987) は *T. c. yamatonis* Tsuneki を *T. frigidum cornutum* Gussakovskij, 1932の同物異名とみなした. 基亜種は北米のカナダと合衆国に生息し, ロシア, 日本に生息するものは, 亜種 *T. f. cornutum* Gussakovskij, 1932とされる. 和名として長くウスリージガバチモドキが用いられていた.

色彩と体サイズからエゾジガバチモドキ *T. figulus* とヒメジガバチモドキ *T. fronticorne* に似るが, エゾジガバチモドキとは触角後方隆起が高く鼻状 (エゾジガバチモドキは低くこぶ状) である事から, ヒメジガバチモドキとは腹部第1節が短く, 長さは最大幅の2.5倍以下 (ヒメジガバチモドキでは約3倍) である事から区別される.

営巣場所の選好性が広く, 木の虫孔, 篠竹, ササ, ススキ等に巣を作る. 1室に3-19頭, 平均で11頭を貯える. 餌はヒメグモ科とコガネグモ科のクモで, 稀にハエトリグモ科も狩る.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州: ロシア (シベリア, カムチャッカ, 沿海州), カナダ, 合衆国.

ヒメジガバチモドキ *Trypoxylon fronticorne* Gussakovskij, 1936 [図7-7, 7-8, 11-18]

体長7-11mm. 腹部第1節は棍棒状で短い. 腹部は黒色. 脚は黒色. メスの頭盾前縁は台形状に弱突出し, オスでは緩やかな弧状となる. 触角間隆起は高く鼻状となる. 眼間比は4:3.

ヨーロッパからインド, スリランカ, ロシア, 日本にまで広く分布し, 幾つかの亜種に分けられる. 日本, 朝鮮半島, 中国東北部, 極東ロシアの個体群には亜種 *T. f. japonense* Tsuneki, 1956の名が与えられており, パラタイプ標本の写真が松浦 (2006) にある.

色彩と体サイズからエゾジガバチモドキ *T. figulus* とヤマトジガバチモドキ *T. cornutum* に似るが, エゾジガバチモドキとは触角後方隆起が高く鼻状 (エゾジガバチモドキは低くこぶ状) である事から, ヤマトジガバチモドキとは腹部第1節が長く, 長さは最大幅の約3倍 (ヤマトジガバチモドキでは2.5倍以下) である事から区別される.

営巣場所の選好性が広く, 木の虫孔, ササ, ススキに巣を作る他, 崖の土の孔にも営巣する. 1室に2-33頭, 平均で11頭を貯える. 餌はウズグモ科, コガネグモ科, サラグモ科, アシナガグモ科のクモである.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 千島 (国後島); 朝鮮半島, 台湾, 中国, ロシア, インド, スリランカ, ヨーロッパ.

ホソジガバチモドキ *Trypoxylon imayoshii* Yasumatsu, 1938 [図4-7, 4-8, 10-12, 10-13, 11-12]

体長8-10mmの細長い種. 腹部第1節はフラスコ状で柄部は細く長い. 腹部第2節, 第3節に赤帯を持つ. 中胸は鮫肌状で光沢を欠く. メスの前脚は基節と腿節外面が黒褐色で, 他は淡黄色. 中脚は基節が黒色で他は淡黄色. 後脚は転節が淡黄色で他は黒色となる. 頭盾前縁は円く突出し, 中央に弱い明瞭な切れ込みがある. 触角が長く, 第3節は長さが幅の約3.8倍, 第4節は約3倍となり, 末端節も長い. 中胸背は微細彫刻のため光沢を欠き, 中央に弱い縦溝がある. オスの前脚腿節は淡黄色. 頭盾前縁は円く突出し, 中央に切れ込みはない.

ササの刈り株へ巣を作った例が知られている（南部，1969）．餌はハエトリグモ科が主で，全て幼体が狩られていた．繭は他種のものに比べて細長い．比較的山地性の種と思われるが，平地の里山の林中にも生息する．

分布：北海道，本州，九州；ロシア（沿海州）．

クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* Matsumura, 1926 [図4-5, 4-6, 11-9, 11-10]

大形の種で，体長はメスで13-16mm，オスで10-12mm．腹部第1節は柄状，腹部に赤色部はない．脚脛は黒色で多少褐色がかかる．頭盾前縁中央に小さな突出部がある．触角間隆起の前縁は横切し，棚状となる．

沖縄島から記載された *Trypoxylon inornatum* Matsumura, in Matsumura & Uchida, 1926, 奄美大島からの *T. amamiense* Tsuneki, 1964 及び台湾からの *T. formosicola* Strand, 1922は単系統群と判断され，かつ3群をそれぞれ独立種とみなす仮説がある一方で，単一の種と判断し，奄美大島の個体群を亜種 *T. f. amamiense* Tsuneki, 1964（タイワンジガバチモドキ奄美亜種・アマミジガバチモドキ）とし，沖縄，八重山諸島のものを亜種 *T. f. inornatum* Matsumura, 1926（タイワンジガバチモドキ琉球亜種・クロイワジガバチモドキ）とするものもある．最終的には分子系統解析を必要とする状況であろうが，本報では *amamiense* は *inornatum* 新参シノニムとなるもので，かつ，*inornatum* は台湾及び香港から記録されている *formosicola* とは独立種とみなす見解（羽田・室田，2009）に従った．

分布：奄美，沖縄，八重山．

イリオモテジガバチモドキ *Trypoxylon iriomotense* Tsuneki, 1981 [図10-16, 11-6]

体長6-7mm．腹部第1節は棍棒状だが，比較的細く長い．頭部は亜四角形．頭盾前縁は中央が葉状に突出し，両側縁ににぶい角がある．腹部は黒色．前脚，中脚は黄色を主体とし，前脚転節，脛節は黄色．後脚は黒色で黄色部をもつ．

腹部第2，第3節の背面にある凹みによって，他種との区別は容易である．クボミジガバチモドキの和名も用いられて来た．

分布：八重山；中国（浙江）．

ハラアカジガバチモドキ *Trypoxylon katsuuense* Tsuneki, 1992 [図9-16, 12-9]

体長11-12mm．腹部第1節は太く短い棍棒状．腹部3節以降が赤黄色であることから，他種との区別は容易である．類似の色彩はイシガキジガバチモドキ *T. petioloides* にも当てはまるが，本種の腹部第1節は柄状であり，かつ腹部全体が赤黄色となる．前脚，中脚は淡黄色，後脚は黒褐色に淡黄色が加わる．

本種は *T. rufiventre* Tsuneki, 1990として記載されたが，*T. rufiventre* Tsuneki, 1976と異物同名であった事から，上記の種限定語が与えられた．現在のところメスのみが知られている．Hashimoto & Nakanishi (1997) にホロタイプ標本の写真がある．

分布：琉球（奄美大島，沖縄島）．

コダマジガバチモドキ *Trypoxylon kodamanum* Tsuneki, 1972 [図7-9, 7-10, 10-23, 10-24]

体長6-7mmの小形の種。腹部第1節は棍棒状で、腹部第2, 3, 4節基部に赤色帯を持つ。オスでは第2節, 第4節基部の赤色帯が不明瞭な場合が多い。前脚, 中脚は基部を除いて淡黄色。後脚は転節と脛節基部が淡黄色で、他は黒褐色。頭部は正面から見て近四角形。頭盾前縁中央に三角形の弱い切れ込みがある。眼間比は2:1。

埼玉県からのみ得られている。神社の柱の虫孔に営巣が確認されている。

分布：本州（埼玉）。

コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koikense* Tsuneki, 1956 [図7-11, 7-12, 9-9, 9-10, 11-20]

体長4-5.5mmの小形種。腹部第1節は棍棒状で黒色。前脚基節, 転節, 腿節は黒色, 脛節は淡黄色。ただし, 腿節基部は黄色となる。オスでは腿節が淡黄色となる。中脚は黒褐色で付節は淡黄色。後脚は黒色。オスの触角第3節は短く, 長さは幅の2倍以下, 第6節の下面の基部はえぐれ, 先端はやや歯状となる。末端節の長さは, 前2節の長さの和にほぼ等しい。

小形のサイズでケシジガバチモドキ *T. exiguum* に似るが, 本種の頭盾は屋根型に膨隆する（ケシジガバチモドキでは丸く膨隆するのみ）ことで容易に区別される。

木の虫孔に好んで営巣する。1室に17-44頭を貯える。餌はウズグモ科, コガネグモ科, サラグモ科, ヒメグモ科のクモで, 小型の種かあるいは幼体が多い。高地性の種で, 本州中部では標高800m以上の地域に見られる。

分布：北海道, 本州, 四国, 九州, 千島（国後島）；ロシア（沿海州）。

コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konosuense* Tsuneki, 1968 [図4-9, 4-10, 11-3, 12-3, 12-8]

体長9-13mm。腹部第1節はフラスコ状で, 柄部はやや短く, 太い, 腹部は黒色。脚は黒色。頭盾前縁中央は四角形状に強く突出し, 他種との区別は容易である。中胸背板は鮫肌状の微細彫刻のため光沢を欠き, かつ中央に縦溝がある。

稀な種で, 日本ではメスのみが見られている。Antropov (1986a) にオスの記載が見られる。

分布：本州；ロシア（沿海州）。

キョウトジガバチモドキ *Trypoxylon kyotoense* Tsuneki, 1966 [図11-8]

体長16-17mmの大形種。腹部第1節は柄状, 腹部に赤帯を持つ。脚は黒色。大顎は暗褐色で, 先端付近に黄白色の斑紋がある。頭盾前縁は円みを帯びた三角形で, 中央部は鈍く尖るのみで, 葉状, あるいは台形状に明瞭に突出しない。

オオジガバチモドキ *T. malaisei* に似るが, 大顎に黄白色の斑紋があることと, 頭盾前縁は三角形で, 中央部は台形状に突出しない事で区別される。

稀な種で, これまでのところ京都からのみ得られており, かつ, メスのみが見られている。

分布：本州（京都）。

フナガタジガバチモドキ *Trypoxylon lucidipes* Tsuneki, 1980

体長6.5-7mm程度。腹部第1節は柄状、腹部第2節、第3節の側面から下縁にかけての後縁部に黄紋を持つ。大顎の基半は淡黄色、先方は暗褐色。前脚基節は黒色、転節から付節までは淡黄色、中脚は基節の基半部の黒色部を除いて淡黄色。後脚は黒色で、転節や脛節の基部と先端部は淡黄色。触角後方隆起が高く突出し、V字状の明瞭な稜となることで、日本産の他種とは容易に区別される。

本種は当初、インドネシアのジャワ島から記載された *Trypoxylon naviforme* Tsuneki, 1979の亜種 *T. n. lucidipes* Tsuneki, 1980としてマレーシアのサラワクから記載されたが、後に独立種とみなされた (Tsuneki, 1981a)。本種と同様に、触角後方隆起が高く突出し、V字状の明瞭な稜となる種は、*T. naviforme* の他に、フィリピンからの *T. townesorum* Tsuneki, 1980及びスリランカからの *T. triangulum* Tsuneki, 1981が知られている。

日本での本種の記録は、羽田 他 (2007)、室田・黒川 (2009) によるもので、それぞれに写真が掲載されている。

分布：奄美大島；マレーシア (サラワク)。

オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932

[図3-4, 5-1, 5-2, 9-17, 9-18, 11-16, 12-6, 12-7]

体長11-16mmの大型の種。腹部第1節はフラスコ状で、メスの腹部第2節から第3節の前縁にかけて赤帯を持つ。赤帯は第1節後縁から始まる個体もある。一方、第3節が全面で黒色となる個体も見られる。オスの腹部は全面で黒色。脚は黒色。頭盾前縁中央部に小突出部を持つ。オスの前胸背襟部の基部に横走する溝がある。

竹筒に1-7室を作り、主にコガネグモ科のクモを狩る。地域によって餌メニューに相違が見られ、東京ではドヨウオニグモを主に狩るが、札幌ではオニグモを主に狩る。1室に1-26頭を貯える。筒巢の30%でメスのみが生まれ、50%の筒巢でオスのみが生まれると言う報告がある (Oku & Nishida, 1999, 2001)。一年で数世代をくり返す。

ミャンマー産のものは亜種 *T. m. arakanum* Tsuneki, 1981として記載されている。

分布：北海道、本州、四国、九州、対馬；朝鮮半島、台湾、中国、ロシア (沿海州、シベリア、ウスリー)、ミャンマー。

ミシマジガバチモドキ *Trypoxylon mishimaense* Tsuneki, 1986

体長6.5mm。腹部第1節はフラスコ状、腹部は黒色。前脚は淡黄色、中脚基節、転節は淡黄色で腿節は部分的に淡黄色、脛節は淡黄色。後脚基節、転節は淡黄色、腿節、脛節は部分的に淡黄色。前胸背側部に淡黄色の斑を持つ。

コダマジガバチモドキ *T. kodamanum* やソナンジガバチモドキ *T. sonani* に似るが、中胸背板は微細彫刻を欠き、点刻されるのみで、光沢がある事で区別される。

これまでのところ静岡県からオスのみが知られている。

分布：本州 (静岡)。

ナンブジガバチモドキ *Trypoxylon nambui* Tsuneki, 1966 [図7-13, 7-14, 9-13, 11-15]

体長はメスで5-6mm, オスで4-5mmの小形種。腹部第1節は棍棒状で短く, メスでは腹部第2節, 第3節の後縁に赤褐色帯があり, 下面は広く黄赤色となるが, オスでは全面が黒色で, 赤褐色帯は見られない。前脚と中脚は, 黒色の基節を除き淡黄色。後脚は基節が黒色, 転節は淡黄色, 腿節と脛節, 付節は黒褐色で, 脛節の基部は淡黄色。頭盾前縁と大顎は黄色。触角は柄節と梗節が淡黄色で, 鞭節は黒色。頭部は正面から見て, 近四角形となり, 眼間比は3-4:1。頭盾前縁に顕著な3歯をもつ。触角は短く太い。

樹林でおおわれ, 日陰の多い環境を好み, 古い神社の柱の虫孔等に好んで営巣する。一つの巣に1-3室が作られ, 1室あたり13-37頭のクモを入れる。餌はコツブグモ科のナンブコツブグモ1種のみとされていたが, 近年, ナンブコツブグモに形態的に酷似した2種が存在することが判明し, 本種の餌データを再度確認する必要がある。

分布: 本州, 四国; 中国 (浙江, 広西)。

ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki, 1956 [図4-11, 4-12, 10-11, 11-22]

体長10-13mm。腹部第1節はフラスコ状で柄節は細く長い。腹部第2節が赤褐色となる。脚は黒色で, 脛節の基方と先端部は黄褐色。オスでは, 前脚脛節の前面が黄褐色となる。触角下面は黄色。頭部は長さよりも幅が大きい。頭盾前縁はほぼ平らで, 前縁中央部はわずかに波状となる。

ススキの枯れ茎に4室を作り, 1室に3-9頭のクモ (ウデブトハエトリとマミジロハエトリ) が入れられていた報告がある (田埜, 1973)。

台湾の個体群は亜種 *T. n. puliense* Tsuneki 1967とされている。日本では北海道に多い。

松浦 (2006) にパラタイプ標本の写真がある。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; 台湾。

オキナワジガバチモドキ *Trypoxylon okinawanum* Tsuneki, 1966 [図11-1]

体長7-8mm。腹部第1節は棍棒状, 腹部は黒色。前脚の転節は黒色, 腿節は黄褐色に褐色部を持つ。脛節は黄褐色。中脚腿節は黄褐色で褐色部をもつ。

これまでのところ, 奄美大島と石垣島から得られている。

本種の奄美大島の記録は, 羽田 他 (2007) によるもので, それに写真で掲載されている。

分布: 奄美大島, 石垣島。

コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932

[図3-5, 3-6, 8-1~8-3, 9-5, 9-6, 10-4, 10-5, 11-13, 12-16]

体長はメスで10-13mm, オスで6-7mm。腹部第1節は棍棒状で, 長さは最大幅の2.5倍以下。メスでは腹部の第2節, 第3節に赤帯を持つものから黒色のものまでが見られる。オスの腹部は全体が黒色。脚は黒色で, 脛節及び付節は褐色。

腹部が黒色のメス個体はミヤマジガバチモドキ *T. varipes* に類似するが, ミヤマジガバチモドキとは, 額の点刻がよりまばらで点刻間の距離は点刻の直径よりも大きい部分が多い事 (ミヤマジガバチモドキは点刻がより密で, 点刻間の距離は点刻の直径とほぼ同じか, 小さい部分が多い) と, 前伸腹節側面は全体的に強い光沢をもち, 上半面は荒めの弱い条刻があること (ミヤマジガバチモ

ドキは細かい条刻がほぼ全面を被い、光沢は鈍い)で区別される(羽田, 2001)。

奄美大島からも得られているが、本島のものは別種の可能性もあり(南部, 2005b)、複数個体の追加採集による比較検討が望まれる。

頭盾前縁の形状は変異があり、メスでは中央部が二葉状のものから、凹みはなく台形状のものまで見られる。オスでは中央部に小さな突起を持つものから、小さな三葉状となるものまで見られる。

竹筒や木の虫孔に2-5室を作り、ウズグモ科、サラグモ科、コガネグモ科、アシナガグモ科のクモ狩る。1室に1-13頭を貯える。

分布：北海道，本州，四国，九州，種子島，対馬；朝鮮半島，ロシア（沿海州，シベリア，ウズリー），中国（湖南）。

ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858 [図3-1, 5-3, 5-4, 9-3, 9-4, 10-1, 10-2, 12-1]

体長12-17mmの大形の種。腹部第1節はフラスコ状で、第2節、第3節は黄赤色となる。脚は黒色で、前脚脛節前面と付節は黄褐色。大顎、触角鞭節下面は黄褐色。頭部、胸部側面、脚腿節に銀白毛を密生する。前伸腹節の心形域の困溝は微弱で、わずかに認められる程度。

竹筒に1-6室を作り、1室に2-10頭を貯える。主にハエトリグモ科のクモを狩り、コモリグモ科、ササグモ科、カニグモ科等も狩る。これらは、ほとんどが網を張らない徘徊性のクモである。アリによって頻繁に営巣が妨害されることが報告されている(Miyano & Yamaguchi, 2001)。染色体組成は $2n=28$ (Hoshiya & Imai, 1993)。

分布：本州，四国，九州，対馬，琉球，小笠原（父島）；朝，台，中，フィリピン，マレーシア，シンガポール，ベトナム，タイ，ミャンマー，インド。

イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922 [図5-5, 5-6, 9-15, 12-15]

体長12-15mm。腹部第1節はフラスコ状で柄部は長い。第1節の後縁付近から末端節までが赤黄色をしていることから、他種との区別は容易である。前脚と中脚は黄褐色で、腿節、脛節の外面は多少黒褐色がかかる。後脚は転節を除き主に黒褐色。

八重山諸島の個体群には亜種 *T. p. ishigakiense* Tsuneki, 1973の学名が与えられている。Hashimoto & Nakanishi (1999) にホロタイプ標本の写真が掲載されている。

分布：八重山（石垣島）；台湾。

キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1932 [図6-1, 6-2, 10-14, 10-15, 11-19]

体長11-17mmの大形の種。腹部第1節はフラスコ状で、腹部に赤帯を持ち、第1節後縁から第2節、第3節は赤黄色。脚は黒色で、前脚脛節の基部1/2と脛節は黄褐色。頭盾前縁はゆるやかな弧をえがき、中央に突出部はない。眼間比は4 : 3。

ナミジガバチモドキ *T. petiolatum* やオオジガバチモドキ *T. malaisei* に似るが、ナミジガバチモドキとは前伸腹節の心形域の困溝が明瞭であることで、オオジガバチモドキとは頭盾前縁が強く反り返ることで区別される。

日本のものには亜種 *T. r. hatogayuum* Tsuneki, 1956の名が与えられている。

竹筒に営巣する。カニグモ科のワカバグモを主な餌メニューとしている。1室に1-29頭を貯えるが、7割は2-6頭で、平均5.6頭と言う観察結果がある。年に数回発生する。

分布：本州，四国；台湾，ロシア（沿海州）。

リュウキュウジガバチモドキ *Trypoxylon ryukyuense* Tsuneki, 1966 [図6-3, 6-4, 11-7]

体長14-17mmの大形種。腹部第1節はフラスコ状で，腹部は黒色。脚は黒色が主体で，基節は黒色，前脚転節は黒褐色，前脚脛節前面に褐色部がある。中脚，後脚転節は黄褐色味が強い。メスの触角は黒色，オスでは褐色。メスの頭盾前縁は台形状で前方へ突出し，中央部に明瞭なへこみがある。オスの頭盾前縁は弱い弧状で，中央部のへこみはない。眼間比は3：2。

朽ち木の虫孔へ営巣した例が報告されている（寺山，1980）。

分布：奄美大島，沖縄，八重山。

マダラジガバチモドキ *Trypoxylon rufimaculatum* Antropov, 1987 [図7-15, 7-16, 10-6, 10-7]

体長はメスで7-10mm，オスで6-7mm。腹部第1節は棍棒状で短い。腹部は黒色。メスの前脚基節，転節，腿節は黒色で脛節と付節は黄褐色。中脚，後脚は黒色が主体で腿節の先端部と脛節の基部付近は黄褐色となる。オスでは，メスよりも黄褐色部が多い。前胸肩部に黄褐色となる。頭部は正面から見て近四角形。触角間隆起の側面は額面に対してやや斜めに接続する。

本種のメスは，ミヤマジガバチモドキは *T. varipes* に類似するが，頭部が歪四角形であることで容易に区別される。その他，触角後方隆起の側面は，より緩やかな傾斜である（ミヤマジガバチモドキはより急な斜面となる）こと，さらに額面の点刻がややまばらで，点刻の直径よりも点刻間の距離が大きい所が多い（ミヤマジガバチモドキでは点刻がより密で，点刻の直径に比べて，点刻間の距離がほぼ同じかより小さい）点と，前伸腹節側面が平滑で強い光沢を持つ（ミヤマジガバチモドキは全面に弱条刻があり光沢が鈍い）ことで区別される（羽田，2001）。

日本では，本種に *T. varipes* の学名が適用されていたが，Antropov（1995）によって，本学名が適用され，ミヤマジガバチモドキが真の *T. varipes* であると判断された。また，日本の個体群では腹部は黒色で，ごく低い確率でしか赤色部をもつ個体は現れないが，海外では赤色のものが多い地域個体群もある。

竹筒や木の虫孔に巣を作り，1室に15-35頭（平均24頭）を貯える。サラグモ科，コガネグモ科，アシナガグモ科，タナグモ科の種を狩る。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，奄美，千島（国後島）；朝鮮半島，中国，ロシア（沿海州，ウスリー）。

サッポロジガバチモドキ *Trypoxylon sapporoense* Tsuneki, 1960 [図7-17, 7-18, 10-19, 10-20, 11-23, 12-11~12-13]

体長8-10mm。腹部第1節は棍棒状でやや長く，側方から見て長さが幅の約3.4-4.5倍。腹部は黒色。脚は黒色。頭盾前縁は中央部で弱く突出する。触角間隆起は低く，こぶ状でその上を縦綾が走る。眼間比は3：2。オスの触角第10節から第12節は短い。

エゾジガバチモドキ *T. figulus* に似るが，眼間比3：2（エゾジガバチモドキは1：1）や中胸側板の点刻がまばら（エゾジガバチモドキではより小さくより密に点刻される）である事や，腹部第1節がより長い（エゾジガバチモドキでは短く，側方から見て長さは最大幅の1.5-2倍程度）事で区別される。分布：北海道，本州；朝鮮半島。

マルトキンジガバチモドキ *Trypoxylon schmiedeknechti* Kohl, 1906 [図4-13, 4-14, 9-2]

体長9-11mm. 腹部第1節は柄状で細長く、第2節も細い。腹部は黒色。脚は黒色。前額に綾で囲まれた盾状部があることで、トキンジガバチモドキ *T. thaianum* を除いた日本産の他種と容易に区別される。トキンジガバチモドキとは、額の盾状域の側角より上方部は下方部よりわずかに長い程度で、かつ、上方部は半楕円形である点と、前伸腹節側面のほぼ全面が粗く条刻される事で区別される。

東南アジアからオーストラリアにかけて広く分布する。

分布：八重山；台湾，中国，フィリピン，インドネシア，シンガポール，ブルネイ，インド，スリランカ，ネパール，オーストラリア，ビスマルク諸島。

シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958 [図 8-4, 8-5, 9-14, 11-17]

体長7-9mm. 腹部第1節は棍棒状。腹部は黒褐色。メスの前脚の基節，転節は黒色，腿節は黒褐色，脛節は褐色，付節は黄褐色。中脚，後脚は黒褐色から黒色。頭盾前縁中央は2歯状に突出する。眼間比は3：2。オスの触角は特徴的で、第5節と6節に縦筋があり、第7節，第8節は横に張り出した大きな突起を持つ。先端節は短く、第12節よりも多少長い程度。前脚基節，転節は黒色，腿節，脛節は赤褐色，付節は黄褐色。中脚基節，転節は黒色，腿節は赤褐色，脛節は褐色，付節は黄褐色。後脚は黒色から黒褐色。

オニグモおよびコガネグモ科のクモを狩る。

分布：北海道，本州；ロシア（沿海州），中国（貴州）。

ソナンジガバチモドキ *Trypoxylon sonani* Tsuneki, 1986 [図 10-21, 10-22]

体長9-11mm. 腹部第1節は棍棒状，腹部第1節の後縁は黄白色，第2節，第3節の横縁と下面部も黄白色。脚の基節は黒色，他は淡黄色。中胸背板は鮫肌状で光沢を欠く。

コダマジガバチモドキ *T. kodamanum* に似るが、頭盾前縁が緩やかな弧状となり、かつ中央部が弱く突出し、先端が反り上がる（コダマジガバチモドキでは頭盾前縁中央部は反り返らず、さらにメスでは中央に三角形の切り込みがある）ことで区別される。

これまでのところ宮崎県からのみ記録されている。

分布：九州（宮崎）。

タカサゴジガバチモドキ *Trypoxylon takasago* Tsuneki, 1966 [図 4-15, 4-16, 10-17, 10-18]

体長9-10mm. 腹部第1節はフラスコ状で、腹部の第1節から第3節は黒褐色，第4節以降は黒色。前脚は褐色，中脚，後脚は黒褐色。大顎は基部を除き赤褐色。前伸腹節の心形域の囲溝はかすかに認められる程度。また背側面は綾となる。

琉球産の個体群には亜種 *T. t. kumaso* Tsuneki, 1966の学名が与えられており、クマソジガバチモドキの和名も使われている。香港産のものには亜種 *T. t. hongkongense* Tsuneki, 1981の名が与えられている。台湾から記録されている *T. formosicola kankauense* Strand, 1922は恐らく本種の古参シノニム。

分布：琉球（奄美大島，沖縄島）；台湾，香港。

トキンジガバチモドキ *Trypoxylon thaianum* Tsuneki, 1961 [図 4-18, 9-1]

体長9-13mm. 腹部第1節は柄状で細長い. 腹部は黒色. 脚は黒色. 前額に縷で囲まれた盾状部があることで, マルトキンジガバチモドキ *T. schmiedeknechti* を除く日本産の他種と容易に区別される. マルトキンジガバチモドキとは, 額の盾状域の側角より上方部は下方部より著しく長く, 上方部の側辺は平行に近い事と, 前伸腹節側面に平滑部があり, 条刻は弱い事で明瞭に区別される.

日本及び台湾の個体群には亜種 *T. t. dubiosum* Tsuneki, 1964の学名が与えられている.

分布: 琉球, 伊豆 (八丈島); 台湾, フィリピン, タイ, インドネシア, スリランカ.

ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905 [図8-6. 10-3, 10-10, 11-14, 12-15]

体長9-11mm. 腹部第1節は棍棒状で, 腹部は黒色であるが, 第2節の基方と後縁, 第3節の後縁部は若干赤味を帯びる. 脚は大部分が黒色で, 前脚脛節は褐色から黄褐色. 頭部は正面から見て, 両側が円くゆるやかに弧をえがき, かつ下方に狭まる. 頭盾前縁中央に切り込みがある. 触角間隆起の側面は額面に対してほぼ直角をなす. 眼間比は2:1. 前伸腹節側面はほぼ全面で弱条刻があり光沢が鈍い.

メスの頭盾前縁中央部の形状は変異が大きく, 中央に凹みを持つ個体から凹まず, 葉状となるものまでが見られる. オスの中央部は葉状となる.

従来, *T. monticola* Tsuneki, 1956の学名が適用されて来たが, Antropov (1995) により, 日本産のものは, *T. varipes* であるとされた.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球, 千島 (国後島); 朝鮮半島, 中国, ロシア (シベリア, イルクーツク).

日本産ジガバチモドキ族の種目録

Family Crabronidae ギングチバチ科

Subfamily Crabroninae ギングチバチ亜科

Tribe Trypoxylonini ジガバチモドキ族

Pison クモカリバチ属

Pison (*Krombeiniellum*) *koreense* (Radoszkowski, 1887) コウライクモカリバチ 本; 朝, 中, 北米

Pison (*Pison*) *argentatum* Shuckard, 1838 ハネダクモカリバチ

Pison (*Pison*) *argentatum hanedai* Tsuneki, 1973 ハネダクモカリバチ父島亜種・ハネダクモカリバチ 小 (父島)

Pison (*Pison*) *hahadzimaense* Tsuneki, 1984 ハハジマクモカリバチ 小 (母島)

Pison (*Pison*) *insigne* Sickmann, 1894 コブクモカリバチ 九; 朝, 中

Pison (*Pison*) *oakleyi* Krombein, 1949 オガサワラクモカリバチ

Pison (*Pison*) *oakleyi boninense* Tsuneki, 1973 オガサワラクモカリバチ小笠原亜種・オガサワラクモカリバチ 小 (父島)

Pison (Pison) punctifrons Shuckard, 1838 ツヤクモカリバチ 本, 九, 屋, 琉, 小; 朝, 東南アジア, 太平洋諸島

Pison japonicum Gussakovskij, 1937 [Synonymy by Tsuneki, 1964]

Pison (Pison) strandi Yasumatsu, 1935 クロバネクモカリバチ 本, 四, 対; 朝

Pison iwatai Yasumatsu, 1935 [Synonymy by Tsuneki, 1964]

Pison (Pison) tosawai Yasumatsu, 1935 チチジマクモカリバチ 小 (父島)

Trypoxylon ジガバチモドキ属

Trypoxylon (Trypoxylon) ambiguum Tsuneki, 1956 フクイジガバチモドキ 本

Trypoxylon (Trypoxylon) chichidzimaense Tsuneki, 1973 チチジマジガバチモドキ 小 (父島, 母島)

Trypoxylon (Trypoxylon) errans Saussure, 1867 トゲジガバチモドキ 本, 四, 九, 対, 沖; 台, 中, 東南アジア, 太平洋諸島, インド, スリランカ, モーリシャス, セイシェル, マダガスカル

Trypoxylon saitamaense Tsuneki, 1973 [Male, aberratio. Synonymy by Tsuneki, 1981]

Trypoxylon pulwaskii Tsuneki, 1956 [Synonymy by Tsuneki, 1981]

Trypoxylon (Trypoxylon) exiguum Tsuneki, 1956 ケシジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, ロシア

Trypoxylon (Trypoxylon) exiguum exiguum Tsuneki, 1956 ケシジガバチモドキ本土亜種・ケシジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 対, 屋; 朝

Trypoxylon pygmaeum : Yasumatsu, 1938

Trypoxylon (Trypoxylon) figulus (Linnaeus, 1758) エゾジガバチモドキ 北, 本; ヨーロッパ, 極東ロシア

Trypoxylon (Trypoxylon) figulus yezo Tsuneki, 1956 [Synonymy by Pulawski, 1984]

Trypoxylon (Trypoxylon) frigidum Smith, 1856 ヤマトジガバチモドキ 北, 本, 四, 九; ロシア, カナダ, 合衆国

Trypoxylon (Trypoxylon) frigidum cornutum Gussakovskij, 1932 ヤマトジガバチモドキ本土亜種・ヤマトジガバチモドキ 北, 本, 四, 九; ロシア

Trypoxylon frigidum cornutum : Tsuneki, 1956 [ウスリージガバチモドキ]

Trypoxylon (Trypoxylon) cornutum yamatonis Tsuneki, 1981 [Synonymy by Antropov, 1987]

Trypoxylon frigidum yamatonis Tsuneki, 1981

Trypoxylon (Trypoxylon) fronticorne Gussakovskij, 1936 ヒメジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 千; 朝, 中, ロシア, ヨーロッパ, インド, スリランカ

Trypoxylon (Trypoxylon) fronticorne japonense Tsuneki, 1956 ヒメジガバチモドキ本土亜種・ヒメジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 千; 朝, 中, ロシア

Trypoxylon pennsylvanicum japonense Tsuneki, 1956

Trypoxylon (Trypoxylon) imayoshii Yasumatsu, 1938 ホソジガバチモドキ 北, 本, 九; ロシア

Trypoxylon (Trypoxylon) inornatum Matsumura, 1926 クロイワジガバチモドキ 奄, 沖, 八

Trypoxylon inornatum Matsumura, in Matsumura & Uchida, 1926

Trypoxylon formosicola inornatum Matsumura, 1926 [As a subspecific rank of *formosicola* by Tsuneki, 1981]

Trypoxylon inornatum Matsumura, 1926 [Regarded as a separate species by Haneda & Murota, 2009]

- Trypoxylon amamiense* Tsuneki, 1964 [Synonymy by Tsuneki, 1966 ; provisional synonymy by Haneda & Murota, 2009]
- Trypoxylon formosicola amamiense* Tsuneki, 1964 [Revived from the synonym of *inornatum* by Tsuneki, 1981]
- Trypoxylon (Trypoxylon) iriomotense* Tsuneki, 1981 イリオモテジガバチモドキ (クボミジガバチモドキ)
八 ; 中
- Trypoxylon (Trypoxylon) katsuense* Tsuneki, 1992 ハラアカジガバチモドキ 奄, 沖
- Trypoxylon (Trypoxylon) kodamanum* Tsuneki, 1972 コダマジガバチモドキ 本
- Trypoxylon (Trypoxylon) koikense* Tsuneki, 1956 コイケジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 千 ; ロシア
- Trypoxylon (Trypoxylon) konosuense* Tsuneki, 1968 コウノスジガバチモドキ 本
- Trypoxylon (Trypoxylon) kyotoense* Tsuneki, 1966 キョウトジガバチモドキ 本
- Trypoxylon (Trypoxylon) lucidipes* Tsuneki, 1980 フナガタジガバチモドキ 奄 ; マレーシア (サラワク)
- Trypoxylon (Trypoxylon) malaisei* Gussakovskij, 1932 オオジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 対 ; 朝,
台, 中, ロシア, ミャンマー
- Trypoxylon (Trypoxylon) mishimaense* Tsuneki, 1986 ミシマジガバチモドキ 本
- Trypoxylon (Trypoxylon) mishimaensis* Tsuneki, 1986 [Incorrect original spelling]
- Trypoxylon (Trypoxylon) nambui* Tsuneki, 1966 ナンブジガバチモドキ 本, 四 ; 中
- Trypoxylon kinkazanense* Tsuneki, 1971 [Synonymy by Tsuneki, 1973]
- Trypoxylon (Trypoxylon) nipponicum* Tsuneki, 1956 ニッポンジガバチモドキ 北, 本, 四, 九 ; 台
- Trypoxylon (Trypoxylon) okinawanum* Tsuneki, 1966 オキナワジガバチモドキ 琉
- Trypoxylon (Trypoxylon) koshunicorm okinawanum* Tsuneki, 1966
- Trypoxylon (Trypoxylon) pacificum* Gussakovskij, 1932 コシプトジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 対 ;
朝, 中, ロシア
- Trypoxylon (Trypoxylon) petiolatum* Smith, 1858 ナミジガバチモドキ 本, 四, 九, 対, 琉, 小 ; 朝,
台, 中, 東南アジア, インド
- Trypoxylon (Trypoxylon) petioides* Strand, 1922 イシガキジガバチモドキ 八 ; 台
- Trypoxylon (Trypoxylon) petioides ishigakiense* Tsuneki, 1973 イシガキジガバチモドキ
八重山亜種 八
- Trypoxylon (Trypoxylon) regium* Gussakovskij, 1932 キスケジガバチモドキ 本, 四 ; 台, ロシア
- Trypoxylon (Trypoxylon) regium hatogayuum* Tsuneki, 1956 キスケジガバチモドキ本土亜種・
キスケジガバチモドキ 本, 四
- Trypoxylon (Trypoxylon) rufimaculatum* Antropov, 1987 マダラジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 奄,
対, 千 ; 朝, 中, ロシア
- Trypoxylon varipes* Pérez, 1905 [Misidentification, see Antropov, 1995]
- Trypoxylon (Trypoxylon) ryukyuense* Tsuneki, 1966 リュウキュウジガバチモドキ 琉
- Trypoxylon (Trypoxylon) sapporoense* Tsuneki, 1960 サッポロジガバチモドキ 北, 本 ; 朝
- Trypoxylon (Trypoxylon) schmiedeknechtii* Kohl, 1906 マルトキンジガバチモドキ 八 ; 台, 中, 東南
アジア, インド, ネパール, オーストラリア, ビスマルク諸島
- Trypoxylon (Trypoxylon) shimoyamai* Tsuneki, 1958 シモヤマジガバチモドキ 北, 本 ; 中, ロシア
- Trypoxylon (Trypoxylon) sonani* Tsuneki, 1986 ソナンジガバチモドキ 九

- Trypoxylon (Trypoxylon) takasago* Tsuneki, 1966 タカサゴジガバチモドキ 琉 ; 台, 香港
Trypoxylon (Trypoxylon) takasago kumaso Tsuneki, 1966 タカサゴジガバチモドキ琉球亜種・クマソジガバチモドキ 琉
- Trypoxylon (Trypoxylon) thaianum* Tsuneki, 1961 トキンジガバチモドキ 琉, 伊 ; 台, フィリピン, タイ, インドネシア, スリランカ
Trypoxylon (Trypoxylon) thaianum dubiosum Tsuneki, 1964 トキンジガバチモドキ琉球亜種・トキンジガバチモドキ 琉, 伊 (八丈島) ; 台
- Trypoxylon (Trypoxylon) varipes* Pérez, 1905 ミヤマジガバチモドキ 北, 本, 四, 九, 琉, 千 ; 朝, 中, ロシア
Trypoxylon monticola Tsuneki, 1956 [Synonymy by Antropov, 1995]
Trypoxylon varipes Pérez, 1905 [Erroneously placed in *Pison varipes nasutum* : Tsuneki, 1982]

謝 辞

原稿の御校閲を頂いた田埜 正氏, 重要な情報をお寄せ下さった高橋秀男氏, 貴重な文献の入手でお世話下さった大野正男氏に厚く御礼を申し上げます。

参 考 文 献

- Antropov, A. V., 1986a. To knowledge of digger wasps from the genus *Trypoxylon* Latreille (Hymenoptera, Sphecidae) in the Palearctic fauna. *Zool. Zh.*, 65 : 624-628.
- Antropov, A. V., 1986b. New and little known sphecid wasps of the fauna of the Soviet Far East. In P. A. Lehr., S. A. Belokohylskiy & H. A. Storozheva (eds.), *Hymenoptera of Eastern Siberia and the Far East. Collected works. Academiya Nauk SSSR*, pp. 81-91.
- Antropov, A. V., 1987. Contribution to the sphecid wasps genus *Trypoxylon* of the eastern Palearctic. In P. A. Lehr & H. A. Storozheva (eds.), *New data on the systematics of insects of the Far East. Academiya Nauk SSSR*, pp. 57-61.
- Antropov, A. V., 1995 (1994). Four new species of the digger wasps genus *Trypoxylon* Latreille (Hymenoptera, Sphecidae) of the Palaearctic and Oriental regions, with taxonomic notes on some others previously described. *Russian Ent. Jour.*, 3 : 123-133.
- 羽田義任, 2001. ミヤマジガバチモドキとマダラジガバチモドキの学名と形態上の特徴について. *福井虫報*, 28 : 3-5.
- 羽田義任・野坂千津子・田埜 正・黒川秀吉・室田忠男, 2007. 2007年8月に奄美大島で採集した蜂類のリスト. *つねきばち*, 12 : 49-59.
- 羽田義任・室田忠男, 2009. 沖縄島産クロイワジガバチモドキと奄美大島産アマミジガバチモドキについて. *つねきばち*, 15 : 1-3.
- Hashimoto, Y. & A. Nakanishi, 1997. A list of the type-specimens of Hymenoptera described by K. Tsuneki in the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo (MNHAH). *Cat. Coll. Mus. Nature and Human Activities, Hyogo*, No. 2, 47 pp.+ 8 pls.

- Hashimoto, Y. & A. Nakanishi, 1999. Additions to the list of Tsuneki's type-specimens of Hymenoptera in the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo. *Nature and Human Activities*, 4 : 55-58.
- 平松毅久・南部敏明, 2004. コウライクモカリバチの獲物の体長について. *埼玉動物研通信*, 49 : 1-2.
- Hoshiba, H. & H. T. Imai, 1993. Chromosome evolution of bees and wasps (Hymenoptera, Apocrita) on the basis of c-banding pattern analysis. *Jpn. J. Ent.*, 61 : 465-492.
- Iida, T., 1969. Contributions to the knowledge of the sphecid larvae in Japan (Hymenoptera) Part I. *Kontyu*, 37 : 272-279.
- Iwata, K., 1964. Ethological notes on four Japanese species of *Pison* (Hymenoptera, Sphecidae). *Mushi*, 38 : 1-6.
- 岩田久二雄, 1981. 本能の進化 蜂の比較習性学的研究. サイエンティスト社, 503 pp.
- 岩田久二雄・片山寛之, 1966. 徘徊性クモの狩獵蜂ジガバチモドキとその敵アナバチクロヒラタコバチとの関係. *Kontyu*, 34 : 172-174.
- Li, T. & Q. Li, 2007. Four new species and nine new species records of the subgenus *Trypoxylon* (*Trypoxylon*) Latreille (Hymenoptera : Crabronidae) from China. *Pan-Pacif. Ent.*, 83 : 1-12.
- 梶田 長, 1939. *Pison iwatai* Yasumatsu の生態. *むし*, 12(2) : 114-146.
- 松浦秀明, 2006. 大阪府立大学大学院生命環境科学研究昆虫研究グループ所蔵の竹内コレクション — 故常木勝次博士同定のハチ目標本について — . *つねきばち*, 7 : 23-52.
- Miyano, S. & T. Yamaguchi, 2001. Ants reduce nest building activities of tube-nesting wasps and bees (Hymenoptera). *Ent. Sci.*, 4 : 243-246.
- 室田忠男・黒川秀吉, 2009. 2008年7月に奄美大島で採集した蜂類. *つねきばち*, 15 : 4-19.
- 南部敏明, 1966. 日本産ジガバチモドキ類 (*Trypoxylon* spp.) の習性およびその天敵について(I). *生物研究*, 10 : 25-34.
- 南部敏明, 1967a. 日本産ジガバチモドキ類 (*Trypoxylon* spp.) の習性およびその天敵について(II). *生物研究*, 11 : 6-12.
- 南部敏明, 1967b. *Trypoxylon pennsylvanicum japonense* Tsuneki の Prey. *生物研究*, 11 : 13.
- 南部敏明, 1969. 埼玉県のジガバチモドキ類. *埼玉生物*, 9 : 17-18.
- 南部敏明, 1971a. キスケジガバチモドキの習性. *生物研究*, 15 : 1-7.
- 南部敏明, 1971b. ヒメジガバチモドキの習性. *生物研究*, 15 : 69-74.
- 南部敏明, 1972a. ナンブジガバチモドキの習性. *生物研究*, 16 : 9-14.
- 南部敏明, 1972b. 埼玉県におけるコシプトジガバチモドキおよびマダラジガバチモドキの餌. *Atypus*, 59 : 6-8.
- 南部敏明, 1978. 埼玉県の蜂. *埼玉県動物誌*, 177-211.
- 南部敏明, 1982a. ジガバチモドキ県別分布表. *蜂友通信*, 14 : 9-10.
- 南部敏明, 1982b. ジガバチモドキの生活から一習性観察のすすめ. *インセクトarium*, 19(2) : 4-9.
- 南部敏明, 2003. *Pison koreense* (Radoszkowski) コウライクモカリバチの習性(I). *埼玉動物研通信*, 44 : 1-14.
- 南部敏明, 2004. *Pison koreense* (Radoszkowski) コウライクモカリバチの習性(II). *埼玉動物研通信*, 47 : 5-6.

- 南部敏明, 2005a. 埼玉県におけるジガバチモドキ (*Trypoxylon* spp.) 類の分布. 埼玉動物研通信, 50 : 13-15.
- 南部敏明, 2005b. ジガバチモドキ類 (*Trypoxylon* spp.) の採集記録. 埼玉動物研通信, 50 : 22-26.
- 南部敏明, 2005c. ケンジガバチモドキ (*Trypoxylon exiguum exiguum* Tsuneki) の獲物. 埼玉動物研通信, 50 : 32-34.
- 南部敏明, 2008. ジガバチモドキ類の県別分布表. 埼玉動物研通信, 57 : 39-44.
- Nemkov, P. G., 2007. The digger wasp fauna (Hymenoptera : Sphecidae, Crabronidae) of Kuril Islands. Euroasian Ent. Jour., 6 : 67-76.
- 野坂千津子, 1993. クロバネピソン営巣時における雌雄の交代. 福井虫報, 12 : 17-20.
- 野坂千津子, 1994. クロバネピソン営巣時における雌雄の交代. 福井虫報, 15 : 79-82.
- 野坂千津子, 1998. オオクモカリバチの営巣. 福井虫報, 23 : 25-29.
- 野坂千津子, 2000. クロバネクモカリの羽化と巣について. 福井虫報, 26 : 31-35.
- Oku, S. & T. Nishida, 1999. Factors affecting female-biased sex ratio in a trap-nesting wasp, *Trypoxylon malaisei*. Res. Popul. Biol., 41 : 169-175.
- Oku, S. & T. Nishida, 2001. Presence of single-sex broods under local male competition in *Trypoxylon malaisei* (Hymenoptera : Sphecidae) : adaptation or maladaptation. Ann. Ent. Soc. Amer., 94 : 550-554.
- O'Neill, K. M., 2001. Solitary Wasps. Behavior and Natural History. Comstock Publishing Associate, 406 pp.
- Pulawski, W. J., 1984. The status of *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758), *medium* de Beaumont, 1945, and *minus* de Beaumont, 1945 (Hymenoptera : Sphecidae). Proc. California Acad. Sci., 43 : 123-140.
- Sheldon, J. K., 1968. The nesting behavior and larval morphology of *Pison koreense* (Radoszkowski) (Hymenoptera : Sphecidae). Psyche, 75 : 107-117.
- 田埜 正, 1973. ニッポンジガバチモドキの巣. 生物研究, 17 : 77-78.
- 田埜 正, 1977. 熊本県五家荘の蜂. 蜂友通信, 6 : 2-3.
- 寺山 守, 1980. 奄美群島三月の蜂 (コバチ上科・ツチバチ上科・ジガバチ上科・スズメバチ上科・ミツバチ上科). 附リュウキュウジガバチモドキの巣. 神奈川虫報, 61 : 25-31.
- 常木勝次, 1956. 本邦産ジガバチモドキ類の分類ならびにその生態に関する諸問題. 生態昆虫, 5 : 119-128.
- 常木勝次, 1964. 蜂類研究手引(20). (8) 日本産ジガバチモドキ属 (*Trypoxyloninae*) (1) ピソンバチ (*Pison*). 生物研究 (福井), 7 : 48-50.
- 常木勝次, 1973a. 蜂類研究手引(31). 日本産ジガバチモドキ属 (*Trypoxylon*). 生物研究 (福井), 17 : 31-38.
- 常木勝次, 1973b. ジガバチモドキの獲物. 生物研究 (福井), 17 : 150.
- Tsuneki, K., 1956. Die Trypoxylonen der nordostlichen Gebite Asiens (Hymenoptera, Sphecidae, Trypoxyloninae). Mem. Fac. Lib. Arts, Fukui Univ., II, 6 : 1-2.
- Tsuneki, K., 1964. On two new species of *Trypoxylon* from the island of Amami-Oshima, the Ryukyus. Etizenia, 6 : 2-6.

- Tsuneki, K., 1966a. Taxonomic notes on *Trypoxylon* of Formosa and the Ryukyus, with descriptions of new species and subspecies (Hymenoptera, Sphecidae). *Etizenia*, 13 : 1-19.
- Tsuneki, K., 1966b. New species of the genera *Trypoxylon* and *Oxybelus* in Japan, with some biological notes (Hym., Sphecidae). *Etizenia*, 16 : 1-8.
- Tsuneki, K., 1967. Studies on the Formosan Sphecidae (II). The subfamily Trypoxyloninae (Hymenoptera). *Etizenia*, 22 : 1-21.
- Tsuneki, K., 1968. Descriptions and records of some fossorial wasps in Japan. *Etizenia*, 27 : 1-8.
- Tsuneki, K., 1971. Studies on the Formosan Sphecidae (X). Revision of and supplement to the subfamily Trypoxyloninae (Hymenoptera). *Etizenia*, 54 : 1-19.
- Tsuneki, K., 1973. New and the first recorded species and subspecies of Sphecidae and Mutillidae from Japan, with taxonomic notes on some species. *Etizenia*, 65 : 1-28.
- Tsuneki, K., 1979. Studies on the genus *Trypoxylon* Latreille of the Oriental and Australian Regions (Hymenoptera, Sphecidae). V. Species from Sumatra, Java and the Lesser Sunda Islands. *SPJHA*, 11 : 1-68.
- Tsuneki, K., 1980a. Studies on the genus *Trypoxylon* Latreille of the Oriental and Australian Regions (Hymenoptera, Sphecidae). VI. Species from Borneo, Celebes and Moluccas. *SPJHA*, 12 : 1-118.
- Tsuneki, K., 1980b. Studies on the genus *Trypoxylon* Latreille of the Oriental and Australian Regions (Hymenoptera, Sphecidae). X. Revision of the Formosan species. *SPJHA*, 15 : 1-56.
- Tsuneki, K., 1981a. Studies on the genus *Trypoxylon* Latreille of the Oriental and Australian Regions (Hymenoptera, Sphecidae). XI. Additional specimens from various parts of the regions, with an appendix on some species from other regions. *SPJHA*, 16 : 1-90.
- Tsuneki, K., 1981b. Revision of the *Trypoxylon* species of Japan and northeastern part of the Asiatic continent, with comments on some species of Europe (Hymenoptera, Sphecidae). *SPJHA*, 17 : 1-92.
- Tsuneki, K., 1982. Sphecidae from North Korea (II) with the list of the species of the family known from the Korean Peninsula (Hymenoptera). *SPJHA*, 20 : 1-22.
- Tsuneki, K., 1984. Solitary wasps newly in the Ogasawara or the Bonin Islands (Hymenoptera). *SPJHA*, 28 : 1-12.
- 植村利夫, 1957. ジガバチモドキ2種の狩るクモ. 自然の観察, 1 : 10-12.
- 山本大二郎, 1944. 2種のジガバチモドキの習性. はち (少年蜂の会), 6 : 22-28.
- 山本 隆・山本大二郎, 1941. 狩獵蜂二種に関する研究. 昆虫界, 89 : 57-60.
- Yasumatsu, K., 1933. Additions to the Hymenopterous Fauna of the Ishigaki island. *Annot. Zool. Jap.*, 14 : 259-271.
- Yasumatsu, K., 1935. The genus *Pison* Spinola of the Japanese Empire (Hymenoptera, Trypoxylonidae). *Annot. Zool. Jap.*, 15 : 227-239.
- Yasumatsu, K., 1936. Hymenoptera of the Bonin Islands. *Trans. Nat. Hist., Formosa*, 26 : 356-363.
- Yasumatsu, K., 1953. Sphecoidea of Micronesia. 4. Revision of the genus *Pison* Spinola. Part 1 (Hymenoptera : Sphecidae). *Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ.*, 10(2) : 133-150.
- 安松京三, 1929. *Trypoxylon obsonator* Smith ジガバチモドキの観察. 昆虫, 3(2) : 107-120.
- 安松京三, 1938. 本邦より未知のジガバチモドキ属2種. 動物学雑誌, 50 : 451-455.